

6章 学生支援・学生活動

工学院大学は「持続型社会をささえる科学技術」の発展に積極的に取り組み、地球環境という人類的視野に立って人間を深く理解・洞察し、豊かな人間性と自らのアイデンティティをしっかりと持ち、グローバルに活躍できる技術者を育て、世に送り出すことを理念目標に掲げている。もとより大学は学問の教授研究を担うだけでなく、学生自らが生活を築き、文化を創り出す共同社会であり、その中で経験するさまざまな集団的生活を通して人間的な側面の成長や成熟、個性や資質の開花が期待される場である。こうした認識のもとに教職員の協力を得て学生部と各学科から選任された学生生活委員が一体となり、学生が心豊かに充実した学生生活を営み、自分を磨き、問題解決能力を醸成し、自己をステップアップさせ、環境にも配慮できるような豊かな人間性が育まれるようにと、学生生活全般の支援と指導に取り組むことを目標としている。

6-1 学習支援

6-1-1 入学前教育

[現状の説明]

入学予定者に対し、本学で学ぶことの意識を高め、入学前教育を含め入学までの期間を有意義に過ごさせるために、2003（平成15）年から共通課程が編集した「大学で学ぶために 入学前準備学習パンフレット」を発行し、12月に入学前オリエンテーションを開催して配布すると共に、2月に通信教育を実施していたが、2006（平成18）年度に教育委員会 入学前教育WGを立ち上げ、スクーリング実施の検討を行ない、2007（平成19）年度の推薦入学者を対象に、2月に4日間のスクーリングも実施することとし、不参加者には従来型の通信添削を実施した。（2008（平成20）年・2009（平成21）年入学者は推薦入学者全員を対象とした。）

この2006（平成18）年度のスクーリング内容は、(1)「工学院大学の歴史と実績」(2)「学生プロジェクトのプレゼンテーション」(3)「各科特別講演」(4)「入学までの有意義な過ごし方」(5)「先輩と話そう」を行った。

[点検・評価][長所と問題点]

スクーリング・通信添削においては、参加した入学者及び協力教員にアンケートを実施し、学習支援センターとの連携や、遠隔地からの参加者の対応など検討課題が挙げられ、2007（平成19）年度以降はその検討課題を踏まえた内容で実施している。

表 6-1 入学前教育 実施状況
スクーリング（新宿校舎）

年度	実施日	出席者数(人)	備考
2006	2007年2月21日～24日	414	スクーリング（新宿）
2007	2008年2月25日～27日	568	スクーリング（新宿）
2008	2008年12月26日	588	オリエンテーション・スクーリング（新宿）
	2009年2月28日	561	スクーリング（新宿）

附属高校生スクーリング（八王子校舎）

年度	実施日	出席者数(人)	備考
2006	2007年2月14日～17日	100	*2007（平成19）年度以降は新宿で合同実施。

通信添削（東進ハイスクールへ委託）

年度	受講者数(人)
2006年度	117
2007年度	664
2008年度	658

<アンケート結果より> (2008 (平成20) 年度抜粋)

スクーリング (回収数 412件)

設問 8. スクーリングはよかったですか?

ア、とてもよかった	18.0%	(前年度19.6%)
イ、よかった	72.6%	(前年度69.3%)
ウ、あまりよくなかった	7.3%	(前年度8.4%)
エ、全くよくなかった	1.2%	(前年度1.9%)
無回答	1.0%	(前年度0.8%)

通信添削 (2008 (平成20) 年度東進ハイスクールで実施 回収数 572件)

質問 5. この講座を受けて

役立ったと思う	79.7%
どちらとも言えない	13.6%
役に立たなかったと思う	3.7%

6-1-2 新入生オリエンテーションキャンプ

[現状の説明]

2007 (平成 19) 年度から、新入生が一日でも早く本学への帰属意識を持ち、学生同士の仲間意識を強めるきっかけを作る場を提供する等の目的のもと、学科ごとに1日ないし2日(合宿)の新入生オリエンテーションキャンプを開催した。後述するチューデントサポートスタッフが、運営に携わる。

[点検・評価][長所と問題点]

オリエンテーションキャンプの実施により、横の繋がりを構築するという目標はある程度達成できた。縦の繋がりを含め、せつかくの関係性構築をそれ以降の大学生活に繋げる方策が必要と考える。オリエンテーションキャンプの内容が学科により異なり(宿泊 or 日帰り、企画内容等)、調整が困難である。ただし、オリエンテーションキャンプはあくまでも、入学後のスムーズなスタートをフォローする目的であり、学習意欲を高めるなど、除籍退学者減少の決定的な要因までにはなりえない。実施時期などを含め問題点を解決しながら改善を進めたい。

6-1-3 基礎学力の強化(学習支援センター)

[現状の説明]

学習支援センターは、本学に入学した学生が「より楽しく、確実に」学べる環境を整えるために、2005 (平成 17) 年 4 月に設立された。センターでは、大学での専門的な学習の前提となる基礎科目(数学・物理・化学・英語)を中心に、高校時に十分習得できなかった科目と大学の講義内容を有機的に結びつけて授業する基礎講座と、一人ひとり(グループでの対応も可)の疑問にとことん応える個別指導が行われ、学生の学ぶ力と意欲を育てる手助けをしている。詳細については、第7章で述べる。

6-1-4 休学者・退学者への対応

[現状の説明]

休学者数・退学者数は、毎月の教授総会で報告している。本学における留年は、(工学部・GE学部)3年次科目履修条件を合格しない場合と卒業論文(卒業研究)を必修にしている学部学科学生がこれに合格しない場合に発生する。

これに対しては、願い出時点で学科面談を実施しており、大学として、制度的に学生への修学支援を実施している。面談結果の記載内容及び願い出内容により、休学・退学理由を集計し、年度終了後報告している。

[点検・評価]

休学・退学・除籍者数は毎月の教授総会で報告しているが、留年者数については定期的な報告事

項とはなっていない。

また、退学・休学の原因については、主に願い出の記載内容から教務学生担当が判別している。本人の願い出の記載内容と真の理由は必ずしも一致していない。修学指導については、主に低学年次を対象とした学習支援センターにおける個別指導、基礎講座が準備されている。

2008（平成 20）年度の内部監査において、休学・退学の理由の分析が不十分であるとの指摘を受けた。休学退学者の願い出記載内容だけでなく、客観的な原因を究明する必要がある。

〔長所と問題点〕〔将来の改善・改革に向けた方策〕

休学・退学者に対して学科面談を義務付けている点は、学修支援の機会を保障している点で重要である。ただ、離籍希望者に関しては、願い出を提出する時点では手遅れとなるケースが多く、日常的な指導が必要である。日常的な学修指導は学科に依存する部分が多いため、全学的な共通認識が必要であるとともに休学・退学・除籍者の原因分析については、データの収集方法を改善して、より正確なデータを蓄積する必要がある。学習支援センターの指導は有効だが、問題は、指導を必要とする学生の利用度が少ない点である。

また、離籍者の原因分析に関しては、願い出の様式を変更し、より正確なデータを蓄積するよう提案するとともに、学習成果や入学時のアンケートなど各種分析を行うことで問題点と改善の方向を模索したい。

学生に対する個別指導の強化は、学科教員の協力、SSSなど事務職員の協力が不可欠である。学生の出席管理システムで取得したデータを学生指導に役立てるような形で提供できるようにシステム開発を行う予定である。また、離籍者に対するスタンスは必ずしも全学で一致しておらず、FD・SDを活発に行う中で、危機感やスタンスを共有する方策を2009（平成 21）年度に設置予定の教育開発センターを中心に検討する。

6-1-5 図書館サービス

〔現状の説明〕

ここでは、学生等の利用に関する事項について述べる。蔵書等については、7-2を参照されたい。

表 6-2 図書館サービス

		2006 年度	2007 年度	2008 年度
開館日数（日）	新宿	291	289	290
	八王子	261	262	263
入館者数（人）	新宿	103361	106302	90142
	八王子	73930	57545	72838
貸出冊数（冊）	新宿	25600	26119	21683
	八王子	14060	12773	14453
AV コーナー利用（件）	新宿	2190	2245	1721
	八王子	4795	5151	4901

1) 開館日数

新宿図書館は、2002（平成 14）年度より授業期間中に限り日曜開館を実施している。また八王子図書館では、2006（平成 18）年度より試験期間中に日曜開館している。開館日数について、特に大きな変化はない。

2) 開館時間

新宿図書館は月～土に 9:15-22:00 まで開館している。また日曜日は、11:00-18:00 まで開館している。八王子図書館は月・水・金が 9:10-17:45、土が 9:10-16:50、火・木は延長し 18:45 まで開館している。また、試験期間 1 週間前から 18:45 まで延長開館している。

3) 入館者数・貸出冊数

入館者数・貸出冊数ともに、減少傾向にある。特に新宿図書館の減少が目立つ。これは、2 部の学生が減少したことが背景にあるといえる。他方、八王子図書館は 2008（平成 20）年度に前年を上回った。

4) AV コーナーの利用

AV コーナーの利用数は、八王子図書館が多い。新宿キャンパスとは異なり、八王子キャンパス周辺には授業時間の合間に出かける所が少ない点が背景にあると考える。新宿図書館では、娯楽系の資料以外にも工学系を中心とする専門的な視聴覚資料を整備し、2008（平成 20）年度に全ての視聴覚資料がタイトル等から検索できるように整備した。

なお、AV コーナーには、DVDをはじめ、LD、ビデオ、CDなどが配架されている。また、ボディソニックが新宿・八王子に各 3 台設置している。

5) ガイダンス

本学図書館では、データベース・電子ジャーナルをはじめ、数多くの電子資料を導入している。これらの資料へのアクセスは学内に限定されるが、他方で、図書・雑誌の所蔵が検索できる無料のデータベースなど、数多くのデータベースが存在する。こうしたことから、学術情報を効率的に収集し、評価するプロセス（情報リテラシー）の普及が大学図書館に課せられた重要なテーマになっている。

本学図書館では、教職員・院生・学生を対象に下記の情報リテラシー教育を実施しており、受講生から非常に高い評価をいただいている。

(1) 新入生オリエンテーション

学生部主催のオリエンテーション中に約 15 分間、図書館利用の説明をしている。4 月上旬に実施している。

(2) 図書館ツアー

実際に図書館を廻り、使い方や図書配架の案内などを行なっている。主に 4 月中に実施している。

(3) 国内文献ガイダンス（「検索の早ワザ」）

国内論文検索を中心に、主に JDream II と CiNii の説明、さらには電子ジャーナルの使い方をガイダンスしている。ガイダンス後は、演習問題を解いてもらう。7 月と 10 月頃に実施している。

(4) 国外文献ガイダンス（「外国文献カンペキ講座」）

国外論文の検索（SCOPUS の使い方）や、外国文献の電子ジャーナルの使い方をガイダンスしている。7 月と 12 月頃に実施している。

(5) その他

マテリアル科学科の授業（3 年生、実験）の一環として、1 コマ国内論文検索のガイダンスを実施している。また、研究室単位でガイダンスの申込があり、個別に対応している。

(6) 利用案内の作成

図書館では、①図書館利用案内（日本語版）、②図書館利用案内（英語版）、③図書館すぐろく（新入生・高校生向け）などを作成している。また、電子媒体と図書媒体を結び付けるため、書架に電子版を案内する簡易的なポスターを掲示している。

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕〔将来の改善・改革に向けた方策〕

開館日については、日曜開館も実施し、開館日数は他大学と比べても多い機関に入るが、年度末の整理休館日については再考の必要がある。

入館者数は減少傾向にあるが、その背景には第 2 部学生の減少とともに、インターネット電子ジャーナルやデータベース、各種申込が研究室等からできる環境が整ってきていることがあげられる。

情報リテラシー教育については、受講した学生からの評価は非常に高く、コンスタントに受講生を集めている。しかし、図書館主催のガイダンスの限界があり、学生全体から見ると受講生は一部の

学生に限られてしまう。そこで今後は、授業と連携したガイダンスが必要となる。他大学では、独自に教材を作成し、初年次教育へ位置づけとしての明確化や、授業として「情報リテラシー教育」を実施しているところが多数みられる。本学図書館では、テクニカル業務（整理・保存・管理）を重視する傾向にあり、他大学のような取り組みは行なわれていない。本来の図書館の目的を再考し、業務内容を再構築する必要がある。

6-1-6 情報サービス

1) 情報科学研究教育センター

[現状の説明]

情報科学研究教育センター（以下センター）は、本学教員の研究促進に資するとともに学生に情報処理設備利用に関する知識と技術を習得させることを主たる目的にしている。目的を遂行するために本学の教育研究用共同利用コンピュータシステムの施設、設備、運営、学内LAN、学外ネットワークとの接続、学外情報関連諸機関との窓口、学部1年次を対象とした情報基礎教育の演習用施設の管理、運営を行っている。

センターでは他大学に先駆け全学生に個人IDを発行し、ID・パスワードの自己管理を始めとする情報技術の基本を学べるようにしている。全学的電子メールシステム利用環境も早くから整備し、ここ数年でWebメール環境に移行をし、学内だけではなく、どこからでも利用可能になっている。また個人がホームページを持ち、社会に対して情報発信をすることを可能としてきた。これら利用に関しては「情報処理概論及演習」の授業の他、センター受付でも対応できる体制をとっている。

毎年新入生には「利用の手引き」を配布し、同時にオリエンテーションを行い利用の促進と情報倫理の向上を図っている。また、研究室へのIPアドレス発行、学内LANの運用や接続支援、各種ソフトウェアの講習会開催などを通して、きめ細かいサポートを行っている。

なお、設備環境については、第7章で述べる。

2) KUPORT キューポート（学園ポータルシステム）

[現状の説明]

2006（平成18）年9月に教職員、学生の情報共有化を目的とするポータルシステムが導入され（2007（平成19）年4月稼働開始）、種々の情報が共有化されるとともに、学生サービスの向上が図られることとなった。また、個々の学生のカルテ（ポートフォリオ）をデジタルに作成し、きめ細かな個人指導が可能となった。2007（平成19）年度には、大学院Web履修システム、シャトルバス予約システム、出席情報収集システム等の開発を実施した。教員により、出席管理・授業の課題や資料の提示、レポートの提出等に活用している。

[点検・評価] [長所と問題点]

これにより、学生への支援強化とサービスの向上、事務部門においては業務効率の向上を図られた。利用促進のため、教職員向けの講習会や説明会を行い、新入生向けにはリーフレットを配布し、周知が行われた。このシステムでは、特に多くの個人情報扱っており、学校法人工学院大学プライバシー・ポリシー（個人情報保護方針）に則り、システムや運用で厳重に管理している。また、閲覧権限等は、個人情報を管理している各部門により厳正に審査し運用している。

[将来の改善・改革に向けた方策]

様々な利用の経験を今後統括し、一層の利用を促進するため提案をまとめていきたい。

6-1-7 学生支援 GP の選定、防災シンポジウムの開催

[現状の説明]

2008（平成20）年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（文部科学省の学生支援GP）に本学が申請した「いのち・つなぐ・ちから—学生連携型地域防災拠点の構築—」が選定された。活動の一環として2009（平成21）年3月1日新宿校舎3階アーバンテックホールにおいて、学生支援GP連携・防災シンポジウムを開催した。また、学内学生団体のリーダーを対象にした「リーダーズキャンプ」では、新宿消防署の協力で普通救命講習を実施し、学生支援GPに即したテーマ「大きな災害発生！リーダーとしてどうする？」でのグループセッションを行った。

6-2 生活支援

6-2-1 学生生活指導・支援のための組織

1) 学生生活委員会

[現状の説明] [点検・評価] [長所と問題点]

学生生活委員会は、課外活動や行事・奨学支援、福利厚生、保健衛生、学生相談など学生生活の充実を図るために必要な事柄や学生支援指導の基本方針を審議するとともに、その時々課題や解決の迫られる支援を教育的かつ円滑に進め対処する教授総会におかれた委員会である。

学生生活幹事の担当を予め決め、時間をかけた検討が必要な課題や問題については、各学科系より1名ずつ選出された検討部会（ワーキンググループ・WG）を設置することで、複数の問題に並行して対応が可能となった。また、学生生活幹事全員のE-mailアドレスや内線番号を学生に公開周知し、日常的に学生の相談に細かく応じられる体制を整えている。

2) スチューデントサポートスタッフ（SSS）

[現状の説明]

本学の除籍退学率減少に向けて分析を行う中、学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、学習面並びに生活面の支援をするために、2007（平成19）年3月1日から学生部内にスチューデントサポート室を設置した。若手職員を中心に十数名のスチューデントサポートスタッフ（SSS）で構成する。

主な活動は、新入生の必修科目の授業出席状況を把握し、出席が滞っている学生を早期に確認し、そのフォローを行うことで、学習意欲減退等の危機的状況に萌芽の段階で対処するために調査分析し、学科との連絡調整を行っている。なお、オリエンテーションキャンプの運営も担っている。

[点検・評価] [長所と問題点] [将来の改善・改革に向けた方策]

- ・SSSが学生に認知されていない。周知の方法を検討する必要がある。
- ・出席管理をメンバーで分担して行った。教員がキューポートに入力した出席データ（紙による提出もある。）から分析していたが、すべての教員が入力しているとは限らず、出席状況の把握が困難であった。出席管理について、スムーズにかつ正確に確認できる手法を検討する必要がある。
- ・学科とSSSのやりとりに時間がかかった。
- ・出席管理し、欠席がちな学生に気がついた時には、事実上、既に不合格確定と言える手遅れな状況あり、その前に「欠席させない」方策を検討する必要がある。

3) 学生部室棟管理運営委員会、厚生棟管理運営委員会、顧問会議、リーダーズキャンプ

[現状の説明]

学生部室棟管理運営委員会、厚生棟管理運営委員会は、学生の自治活動や課外活動を通じて、健全な育成を図るための環境整備（主として部室の貸し出し管理や美化保全など）について、学生部長が主催して学生課と学生代表が一堂に会し審議検討する機関である。

顧問会議は、クラブ活動をより活発に支援・推進する為の組織として学生部長の下に顧問会議を開

催し、下記の事項を審議する。

審議事項

- (1) クラブ活動に関する総合的な事項（活動予算の配分等について）
- (2) 教授総会に提出すべき案件（規程の見直しなど）
- (3) その他必要事項

リーダーズキャンプは、毎年12月中旬に学生団体・クラブ等の指導的立場にある、または次年度そのような立場に立つ中心的な学生を一堂に会し、学生生活委員主導で、1) リーダーとして持つべき心得や部員のまとめ方および各団体の持っている悩みを共有し、解決に向かってなすべき事柄を探る機会とする。2) 安全に対する講習会（これまでは負傷者への対応の仕方やアルコールパッチテスト）を開催し、部活動の円滑な継続運営や学生の生命に対する尊重と倫理観の育成に努めている。

[点検・評価][長所と問題点]

課外活動の問題点としては施設面の整備状況と使用環境の整備である。現時点ではスポーツ活動と文化活動の活動場所については、学生部を中心に学生団体と調整している。本学では、施設面で特殊な器機や用具を使用する部活動に対する専用の施設がなく、指導者や部員の創意工夫でこれまで活動を継続し成果を上げている。

自治会公認団体でないサークル・グループの活動状況が掴みにくい点は今後の検討課題である。

[将来の改善・改革に向けた方策]

学生の課外活動（特に運動部や文化部）をサポートする教・職員側の問題として、学生が顧問の就任要請をしてもすんなり受けていただけないケースが出てきていることである。この背景には事故等が起きた場合の責任の所在問題が大きく影響しているものと考えられる。この様な場面に対する諸問題点をクリアーにして行く必要がある。例えば傷害保険に加入する等の措置が考えられる。

4) 学生部窓口

[現状の説明]

大学の学生寮は廃止となり、下宿・アパート等については、八王子校舎では学生部窓口で、新宿校舎では生協で紹介している。家主より紹介の依頼があれば八王子学生課でその物件の詳細を確認し、家賃別に掲示等で紹介している。特に新入生には家族等の同伴で物件を確認することを勧めており、希望物件があれば紹介状を作成している。また、毎年12月に下宿・アパート家主を招いた家主懇談会を開催し、お互いの現況報告を行い常に連絡を保っている。

また、本学では、勉学を継続させるためにやむを得なく経済的な援助を必要とする学生に対してアルバイトを紹介している。「東京学生アルバイトFAX情報システム連絡会」に加盟し、条件のよい求人を見つけてFAXで受信していたが、2007（平成19）年12月をもって連絡会が終了した。2008（平成20）年1月以降は、ホームページ等を利用して本学独自で求人を募集し、求人を受け付ける際は、仕事等に危険がないか、健康上害はないか、仕事内容・時間をチェックした上で学生に紹介している。

5) 父母との連携に基づく学生生活の支援・・・大学後援会

[現状の説明]

工学院大学には、在学生の父母と教職員が相互に協力して、学生生活の向上を図り、併せて大学の発展に寄与することを目的とした後援会組織がある。この目的を達成するために、(1) 学生の文化会・体育会の活動、「ゆめ工房」学生プロジェクト（創造活動）に対する援助 (2) 学生・教職員の福利・厚生施設の設備の補助 (3) 学生・教職員の学術行事への援助 (4) 教職員と父母との懇談会の開催 (5) 大学の諸行事の後援などを行っている。（表6-3参照）

表 6-3 大学後援会事業報告 (2008 (平成 20) 年度)

1. 大学への援助	1-①	「ダッシュ 21」計画のための特定預金積立。[3 年目]
	1-②	大学厚生施設 (学寮関係) 充実のための援助。
	1-③	「卒業記念祝賀会」及び同記念品代の援助。 学部生 「印鑑」、大学院生 「ウッドデスク・電波時計」
	1-④	各学部学科へ学生の福利厚生のための援助。
2. 学生への援助	2-①	「大学後援会給付金」の給付。
	2-②	学生のクラブ活動 (体育会・文化会・同好会) に対する援助。
	2-③	学園祭に対する援助。
	2-④	学生の特別課外活動 (創造活動) に対する援助。 「ロボットコンテスト」・「ソーラーカー」等全国大会出場に援助。
3. 会員相互活動への援助	3-①	支部総会並びに父母懇談会の開催。5 月～7 月まで全国 21 支部。
	3-②	キャンパス見学会の開催 (新宿・八王子)。10 月中旬。
	3-③	「就職に関する懇談会」の開催。新宿キャンパス。
	3-④	4 月 1 日入学式後の父母説明会を新宿 (第 2 部)・八王子 (第 1 部) で開催。 全体会並びに支部別説明会を実施。
	3-⑤	支部活動に対する後援。
	3-⑥	父母懇談会用のビデオ制作。定期総会で公開を目標に制作。
	3-⑦	機関紙「後援会会報」年 2 回 (1 月・10 月) 発行。
	3-⑧	後援会のしおりを会員に配布。
	3-⑨	後援会 60 周年記念行事のための特定預金積立。

後援会活動の中の最大の行事は、例年 5 月最終週から 7 月下旬までの土曜日・日曜日を利用し、全国 21 支部で開催される父母懇談会である。懇談会では後援会会長が本部役員の立場から後援会活動全体の報告を行い、大学代表として出席される学長、副学長、学長補佐、常務理事のいずれかが大学の現況、将来に向けての展望・企画・計画等についての説明、教務部長あるいは学生部長が学生の修学状況、課外活動など学生生活全般についての説明が行われる。その後、各学部学科教員と父母との間で学生生活、学業成績、クラブ活動、就職活動状況等について個別面談を行い、さらに教職員、父母との交流を深める目的で懇親会を開催している。(表 6-4 参照)

表 6-4 大学後援会・父母後援会出席状況表

年度 支部名	2006 (平成 18) 年度			2007 (平成 19) 年度			2008 (平成 20) 年度		
	会員数	出席者数	%	会員数	出席者数	%	会員数	出席者数	%
北海道	45	12	27	54	13	24	46	11	24
奥羽	73	20	27	84	20	24	85	14	16
東北	163	31	19	158	33	21	148	20	14
茨城	221	43	19	226	48	21	236	51	22
栃木	128	47	37	135	39	29	148	34	23
群馬	123	33	27	132	37	28	123	31	25
埼玉	1,062	78	7	1,118	101	9	1,144	116	10
千葉	374	42	11	374	47	13	358	40	11
東京	2,295	231	10	2,275	214	9	2,306	189	8
神奈川	1,032	100	10	1,008	92	9	998	89	9
新潟	95	25	26	89	31	35	100	29	29
北陸	63	19	30	67	25	37	55	16	29
山梨	124	28	23	140	25	18	151	30	20
長野	136	22	16	146	34	23	159	33	21
静岡	197	53	27	187	47	25	205	51	25
中京	85	26	31	74	18	24	66	17	26
近畿	44	11	25	32	7	22	27	6	22
中国	90	27	30	81	23	28	71	20	28
四国	40	14	35	32	16	50	28	13	46
北九州	73	18	25	71	17	24	63	18	29
南九州	55	12	22	55	14	25	44	12	27
合計	6,518	892	14	6,538	901	14	6,561	840	13

その他主な行事として「キャンパス見学会」と「就職に関する懇談会」がある。「キャンパス見学会」は、例年10月あるいは11月の土曜日に2週にわたって実施している。支部毎に新宿キャンパス、八王子キャンパスに分かれて行われ、参加者数も年々増加傾向にある。「就職に関する懇談会」は、例年2月中旬に実施される。当日は、アトリウムで全体会、その後学部・学科系列毎に分かれ、それぞれに対応する求人動向・就職活動状況等の説明、質疑応答が行われる。ご父母の参加者数は2006（平成18）年度396人、2007（平成19）年度464人、2008（平成20）年度603人とキャンパス見学会同様年々増加している。（表6-5参照）

表6-5 キャンパス見学会参加者数

年 度 キャンパス	2006 年度	2007 年度	2008 年度
新宿キャンパス	362 人	305 人	331 人
八王子キャンパス	152 人	215 人	210 人
合 計	514 人	520 人	541 人

〔点検・評価〕〔長所と問題点〕

他大学でも例を見ない規模と組織体で大学後援会の活動が行われていることは誇るべきである。首都圏4支部を中心にした本部活動の他に全国21支部での支部活動をしているが、父母懇談会として対象学生数に対する父母の出席率は2006（平成18）年度・2007（平成19）年度が14%、2008（平成20）年度が13%である。支部別にみると首都圏以外の支部ほど出席率が高いが、それでも20%台が殆どで、2006（平成18）年度で30%を超える支部は栃木、北陸、中京、中国、四国の5支部、2007（平成19）年度は、新潟・北陸・四国の3支部、2008（平成20）年度では四国のみである。埼玉支部は2006（平成18）年度・2007（平成19）年度でそれぞれ7%・9%と落ち込んだが、2008（平成20）年度には10%台に回復した。東京支部、神奈川支部は2007（平成19）年度から一桁の出席状況となった。各支部とも出席率を上げようと様々な方法を試みているが、残念ながらなかなか出席率が上昇しない現状がある。しかし、参加した父母からは「出席してよかった」、「先生と話ができてよかった」、「大学の現状が把握できた」、「子供の成績・単位取得状況が分かってよかった」、「就職状況が分かった」など軒並み好評で、開催目的を十分果たしている懇談会になっている。

一方、父母懇談会開催の是非については、父母及び教職員の受け止め方は多様であり、上記の通り、参加した父母からは大学のきめ細かい面談対応を肯定的に受け止める半面「十分な面談時間が取れない」、「面談教員が学生の情報をあまり把握していない」、「学生の修学状況に対し、もう少し関心を持ってほしい」、「親子の意思疎通が希薄ではないか」等の批判的意見も聞かれる。また、後援会本部役員、大学代表として出席する学長・副学長・学長補佐・面談に携わる教員の負担と労力は相当なものとなっている。その他、各支部の開催会場確保と支出の増大、事務局として派遣する職員の確保、資料を準備する事務局の負担も大きな問題となっている。

〔将来の改善・改革に向けた方策〕

父母懇談会の開催方法の改善については、毎年度、大学後援会の課題事項として検討されるが、開催行事が拡大し、本部役員はじめ大学幹事の負担が大きくなってきているため、目新しい改革案も提案されず、結局は例年通りの開催要領で実施せざるを得ない状況に至っている。また、父母懇談会の他、定期総会、定例理事会、キャンパス見学会、本部役員研修会、全国支部長会議、就職懇談会の開催等多くの行事が組み込まれており、奉仕的に活動されている後援会本部役員の本務にも影響を与え始めている。また、大学幹事、面談担当教員のスケジュール調整が厳しい状況で、新規事業の実施もままならない状態である。大学後援会の運営については、父母懇談会を含め、根本的に検討する時期

にきている。

6-2-2 経済的支援

[現状の説明]

本学には教育を受ける権利を等しく学部生および大学院生に保証するための経済的支援体制（表6-6参照）が整っている。

1) 日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構（旧日本育英会）奨学金には、例年多数の学部生や大学院生が申請し、学部生の奨学生は、2008年度は約2,000名（第1種奨学金・第2種奨学金の総数）で、学部生の約3分の1の学生が貸与を受けている。学部生においては、本学に割り当てられた受給者（推薦）数との学部生の申請者数にはかなりの差があり、機構から示された一定の条件による絞り込みに苦慮している。さらに、昨今の不況の影響が起因してか、高等学校での大学進学予約採用で貸与を受ける学生が年々増えており、2008年度は247名と増加したことが貸与者の総数を増やした要因となっている。しかし、大学1年生に対する推薦枠と比べると、2年生以上を対象とした推薦枠が非常に少なく、1年次は奨学金を考えていなかった学生や、2年次以降に奨学金が必要になった学生は、貸与を受けられないケースが多く見られる。また、2年生以上の学生の場合、成績基準が、第1種奨学金は各学科の上位3分の1以上、第2種奨学金は各学科の上位2分の1以上と、高い基準のため、家計が苦しい状況であっても、貸与を受けられない学生も出ているのが現状である。

大学院生の奨学生は、2008年度は約250名で、大学院生の約半数が貸与を受けている。第1種・第2種両方の貸与を受けることは認めていないものの、申請者数と割り当て数がほぼ同数であり、申請すれば全員受給できる年度が多い状況である。年度によって申請者数が多い場合もあるが、不採用となった場合でも追加採用で採用されている。

表6-6 2008（平成20）年度奨学金受給状況

奨学金の名称	学部・大学院の別	学内・学外の別	給付・貸与の別	支給対象学生数 (A)	在籍学生総数 (B)	在籍学生数に対する比率 $A/B*100$	支給総額 (C)	1件当たり支給額C/A
日本学生支援機構第1種	学部	学外	貸与	608	6,037	10.07	397,820,000	654,309
	大学院	学外	貸与	134	541	24.77	142,192,000	1,061,134
日本学生支援機構第2種	学部	学外	貸与	1383	6,037	22.91	1,142,940,000	826,421
	大学院	学外	貸与	109	541	20.15	117,120,000	1,074,495
工学院大学学園奨学金	学部	学内	貸与	2	6,037	0.03	1,200,000	600,000
	大学院	学内	貸与	0	541	0.00	0	0
工学院大学百周年記念奨学金	学部	学内	貸与	15	6,037	0.25	16,470,500	1,098,033
	大学院	学内	貸与	4	541	0.74	2,163,000	540,750
工学院大学後援会給付奨学金	学部	学内	給付	7	6,037	0.12	8,111,500	1,158,786
	大学院	学内	給付	1	541	0.18	873,000	873,000
大学入学試験成績優秀者特別奨学金	学部	学内	給付	6	6,037	0.10	5,700,000	950,000
大学成績優秀学生奨励奨学金	学部	学内	給付	76	6,037	1.26	36,170,000	475,921
大学院進学奨励学費減免	大学院	学内	給付	16	541	2.96	4,880,000	305,000
池田和夫研究奨励金	学部	学内	給付	2	5,920	0.03	140,000	70,000
	大学院	学内	給付	1	541	0.18	70,000	70,000
成績優秀学生奨励金（佐瀬正道基金）	学部	学内	給付	2	6,037	0.03	100,000	50,000
	大学院	学内	給付	1	541	0.18	50,000	50,000
成績優秀学生奨励金（鈴木昇太郎基金）	学部	学内	給付	0	6,037	0.00	0	0
	大学院	学内	給付	1	541	0.18	50,000	50,000
岩城基金	学部	学内	給付	1	4506	0.02	50,000	50,000

2) 学園奨学金・百周年記念奨学金

本学の学園奨学金・百周年記念奨学金は、留年してしまったが卒業を目指し努力している学生の申し込みが多い。日本学生支援機構奨学金を含めた他の奨学金は、最短修業年限が奨学金を受けられる

期間となっているため、在学年数が5年目以降の学生にとって、本学の奨学金が申し込みできる唯一の奨学金となっており、非常に役立っている。

3) 民間の奨学金

民間団体の奨学金は、対象となる学生の数は少ないが、給付奨学金の額も多く、学生の勉学や研究の継続支援に役立っている。

4) 大学後援会による奨学金制度

学部生や大学院生が経済的事情から過度のアルバイトをすることにより、休学・退学へと追い込まれることを極力回避するために、家庭事情の急変や自然災害を受けた学生には日本学生支援機構（旧日本育英会）の緊急採用、応急採用奨学金制度が知られているが、本学独自に主たる家計支持者の死亡により修学困難となった学生達には学費年額相当額を給付する大学後援会による奨学金制度もある。さらに、昨今の不況に対する経済支援策として、大学後援会の寄付金を原資とした応急給付奨学金規程が2008（平成20）年12月に作られ、2009（平成21）年4月より施行されることが決定している。

5) 本学学園関係者の寄付による各種学資給付奨学金制度

また、成績優秀な学部生や大学院生を奨励するため、本学学園関係者の寄付による各種学資給付奨学金制度もあり、勉学継続の支援に大いに寄与しているといえる。

6) 学生応急貸付金制度

学部生や大学院生に不測の出費があったり、家庭からの送金が遅れたりして一時的に就学に必要な経費の調達が困難な事態が起こった時に、緊急的に救済するために大学後援会からの寄付金を基金とした貸付制度であり、年間多くの学生が利用している。（表6-7参照）

表6-7 学生応急貸付金制度

貸付金額	30,000円以内(5,000円単位) 特に必要と認めた場合は50,000円まで
借用手続	学生証と印鑑を持参のうえ、借用申込書に必要事項を記入し所定の窓口申請
申請窓口	八王子キャンパス在籍者は、八王子学生課 新宿キャンパス在籍者は、新宿学生課
返済方法	借入手続をした窓口に、貸付を受けた翌日から6ヵ月以内に、一括または分割払いで返済

7) 学生教育研究災害傷害保険

そのほか通学時や授業中および課外活動中での事故による身体の傷害に対する保険制度である学生教育研究災害傷害保険に加入しているが、2007（平成19）年度入学生からは、正課・学生行事、課外活動及びその往復中に他人にケガをさせたり、他人の物を壊したことに対する保険（学生教育研究賠償責任保険）に加入した。また、診療費等補助として授業中や部活動中の事故に際し治療費や眼鏡・コンタクトレンズの破損等に対して総額2万円までの援助ができる制度も整っている。

また生協では、任意加入の総合学生共済を扱っている。

表 6-8 学生教育研究災害傷害保険

1,200万円コース

種別	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金		入院加算金 (180日を限度)
			実治療日数 4日以上から対象	6千円～30万円	
正課中・学校行事中	1,200万円	54万円～1,800万円	実治療日数 4日以上から対象	6千円～30万円	1日につき 4,000円
上記以外で学校施設内 にいる間	600万円	27万円～900万円	実治療日数 14日以上から対象	3万円～30万円	1日につき 4,000円
課外活動中	600万円	27万円～900万円	実治療日数 14日以上から対象	3万円～30万円	1日につき 4,000円
通学中・学校施設等相 互間の移動中	600万円	27万円～900万円	実治療日数 7日以上から対象	1万5千円～30万円	1日につき 4,000円

2,000万円コース

種別	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金		入院加算金 (180日を限度)
			実治療日数 4日以上から対象	6千円～30万円	
正課中・学校行事中	2,000万円	90万円～3,000万円	実治療日数 4日以上から対象	6千円～30万円	1日につき 4,000円
上記以外で学校施設内 にいる間	1,000万円	45万円～1,500万円	実治療日数 14日以上から対象	3万円～30万円	1日につき 4,000円
課外活動中	1,000万円	45万円～1,500万円	実治療日数 14日以上から対象	3万円～30万円	1日につき 4,000円
通学中・学校施設等相 互間の移動中	1,000万円	45万円～1,500万円	実治療日数 7日以上から対象	1万5千円～30万円	1日につき 4,000円

※2007年度入学生以降は2,000万円コースに加入している。それ以前は1,200万円コースに加入していた。

[点検・評価] [長所と問題点]

日本学生支援機構奨学金は、高等学校在籍時に申請し、大学進学後に貸与を受けることができる予約採用者が多くなっているものの、入学後の申込件数は新入生から在生まで毎年非常に多く、また本学の奨学金・民間団体の奨学金の申し込みが年度初めに集中するため、学生課の窓口業務が集中するのが年度初めの恒例である。

本学独自の奨学金制度も多種にわたって学生を支援し続けていることは大いに評価されるべきことである。反面、残念なことに卒業後奨学金の返済を滞らせている卒業生も数多く、督促回収するにも様々な障害があり、回収率の向上改善には困難な状況が続いている。

また、日本学生支援機構奨学金においては、奨学生の増加に伴い、奨学金の手続きを怠るケースが増えてきている。返還誓約書などの手続き書類を提出しない学生や年1回の継続手続きを怠り、奨学金を打ち切られる学生など、次年度以降の推薦枠に影響を及ぼす事態も見られるため、学生に奨学生としての自覚を持ってもらうための意識改革が、今後の課題である。

主たる家計支持者の死亡時に対する大学後援会からの給付奨学金は、給付後に退学した学生がいたことから、2006年度より最終学年に給付することに変更となった。給付される年度は変更されたものの、家計支持者を亡くした学生への給付(学費年額相当)の存在は重要で、毎年10件近い申請がある。また、成績優秀学生に対する奨学金制度の存在は、学生の勉学意欲と不断の努力に対する顕彰として高く評価されている。

[将来の改善・改革に向けた方策]

何より日本学生支援機構からの本学学生に対する支援割当て件数の増加が望まれる。生活困窮学生に対する奨学金制度については、数年来検討課題になるが、実現までには至っていない。学園奨学金についても在学期間につき1回の貸付機会であることや保証人制度の問題もあるが、在学中の本人

の勉強意欲の持続と卒業後の返済見通しの判断が難しいところでもある。

日本学生支援機構奨学金の奨学生に多くみられるが、保証人からの勧めで奨学金を申し込むケースや、今は必要ないが、来年になると借りることが難しくなるので、とりあえず申し込みするといったケースが見られる。こういった学生が奨学生としての意識の低さの要因となり、本当に必要な学生が借りられなくなったり、推薦枠に影響を及ぼす事態になっている。

日本学生支援機構も、「個人信用情報の取り扱いに関する同意書」とり、返還を怠る学生に対し、ペナルティを課す事を始めており、説明会等を開き、奨学生として必要な事を教える必要があるが、説明会への参加率が低かったり、全体の奨学生の人数が多く個々への対応が難しいことから、意識の低い学生への指導が行き届いていない。

大学院修了生に対する第1種奨学金返還免除制度が2004（平成16）年度から実施されたが、この制度を知らない学生も多くいる。免除額が全額免除または半額免除と高額で、また免除者数が、2006年度は15名、2007年度は19名、2008年度は23名と少しずつ増えていることもあり、この返還免除制度を希望する学生も少しずつ増えている。だが、第1種奨学金受給者のみが免除対象となるため、大学院生全体の研究意欲を向上させるには至っていない。今後は、第1種奨学金受給者の増加と返還免除制度のより一層の周知が必要と思われる。

本学の奨学金の問題点は、貸付機会が在学期間中1回であること、返還期間が4年間と短いことの2点である。貸付機会が1回であることから、1・2年生で必要としている学生の申請の妨げになる。学園奨学金は、日本学生支援機構奨学金の貸与を受けている学生の申請も多く、また、学園奨学金の返還期間が短いため、就職して間もない学生には返済が難しくなる。日本学生支援機構は20年、民間団体の多くは10年の返済期間であることから、本学の奨学金も10年程度の返還期間に変更することが望まれる。

また、昨今の経済不況の影響で、入学金等を納入するための奨学金制度に関する問い合わせが増えている。日本学生支援機構や民間団体の奨学金には、入学金等を納入する奨学金はなく、本学もそのような奨学金はないため、救済する手立てが現状はない。他大学の状況をみると、大学独自で入学金等の費用を貸し付ける制度もあるため、本学も同様な奨学金の設立が望まれる。

奨学金以外の経済支援も、申請・利用する学生はいつも決まっており、学生への周知が課題である。

6-2-3 各種奨学金等の学生への情報提供の状況とその適切性

[現状の説明] [点検・評価] [長所と問題点]

入学時ガイダンスで資料の配布と説明をしている。学生課が窓口となっており、随時奨学金に関する情報は専用の掲示板で周知を図っているが、昨今の学生たちは掲示板を見る習慣に欠けているようである。また、キューポートを使っても周知しているが、パスワードの紛失や使い方が分からないなどを理由に情報が学生に行き届いていない事が現状で、残念ながら昨今の学生は、掲示物を見る習慣に欠けているものが多く、掲示を見逃し、手続き期限間際にぎりぎりに飛び込んでくる学生も多いようである。

奨学金制度への認識不足から学費延納、休学、除籍等を余儀なくされている学生も後を絶たない。また、奨学金に関する学生や父母の関心は高く、入試合格後の諸手続き時にも奨学金案内文書を同封したり、後援会主催の父母懇談会（全国21会場で前期に実施）の資料として父母の方々にも制度を知っていただくように努力はしているが、学生自身に大学として奨学金制度や緊急貸し出し制度の存在についてしっかりとした情報開示の徹底と受給資格などを含めた制度の見直しが急がれる。

[将来の改善・改革に向けた方策]

様々な機会に新宿・八王子寮キャンパスの学内掲示板や情報掲示板（キューポート）やホームページに掲載して周知を図っているが、掲示物を見る習慣のない学生に対してどのように周知していくか

が、今後の課題となるが、良い方策は見つかっていない。どのような手段をとっても、見る側にその意識がなければ、難しい。奨学金の問い合わせは多くても、奨学金の掲示板がどこにあるか判らない学生も多く、申請はするが、その後掲示板等を確認しないため、必要な手続きを怠ってしまうケースも見受けられる。日本学生支援機構の奨学金等は、手続きを促すために個別に電話連絡をしているが、学生が自ら確認する手立てがないかを模索中である。

大学のどこにどのようなものがあるかを入学後のガイダンス等で伝えても、なかなか周知徹底できていない。しばらくは、学生へ周知できる機会がある度にその都度周知することが必要と思われる。一方で、期日を守らない学生に対しては、期日を守ることの重要性を認識してもらうために、指導を徹底する必要があるかもしれない。窓口での対応に関しては今後も議論を重ねていく必要がある。

6-2-4 学生の研究活動への経済的支援

[現状の説明]

外国における国際学会で研究発表する大学院生は、年々増加傾向にある。申請により学会参加に関する旅費を補助支給しているが、予算を増額したものの、申請者の増加により、1名につき補助額の上限を15万円から12万円に引き下げざるを得ない状況になった。

また、国内の学会発表に関しても交通費、宿泊費（1泊分の上限あり）、学会参加費等を補助している。指導教員によっては修士課程の学生に学会発表を義務付けているので、発表者は増加の傾向にある。

6-2-5 自然災害への経済的支援

[現状の説明]

2007（平成18）年に新潟中越沖地震、2008（平成19）年に岩手・宮城内陸地震および中国四川大地震において、本学学生に対する救済特別措置を周知し、2007（平成18）年は1名、2008（平成19）年は中国四川大地震で大学院生1名が対象となり、年間学費半額相当額を免除とした。

6-2-6 学生相談室

[現状の説明]

2005（平成17）年より新宿キャンパスにも学生相談室を設置し、八王子、新宿両キャンパスで学生相談室を設置し、専門のカウンセラーが相談に応じている。常駐のカウンセラーの数や相談室の開室状況は下表の通りである。新宿相談室では二部学生の相談にも対応しているため18:00の閉室となっている。

表 6-9 学生相談室

	新宿キャンパス	八王子キャンパス
(1) カウンセラー	2名	1名
(2) 週間開室日数	4日	4日
(3) 開室時間	10:00～18:00	9:00～17:00

1) カウンセラーの編成とサポート体制

八王子相談室の臨床心理士の資格をもち心理面、精神面の専門性が高いカウンセラー（女性）を始め、病院および企業の健康管理室勤務の経験のある看護師で産業カウンセラー資格をもつカウンセラー（女性）、更には企業の採用、人材育成教育の経験と産業カウンセラーの資格を持つカウンセラー（男性）を配して広い角度からのサポート体制が整っている。

相談件数は近年ますます増加傾向にあり、それぞれのカウンセラーの専門性を活かしてサポートを

進めているが相談者の目指すところは、早期の「自己変容」と「自己実現」にあるため学生相談室だけの対応では最適ではないと判断された場合は、相談者の承諾を得て、健康相談室および校医によるサポートや医療機関の受診や学科の教員や就職課、学生課の支援と協力を求めている。

2) 相談の状況

2006（平成18）年度から2008（平成20）年度の年度別の相談件数は別表に記載の通り3年間でそれぞれ、737件、613件、752件となり、3年間で2,102件に上った。（いずれも性格検査・診断件数は除く）相談の内容別では「進路修学」に関すること（486件）、「心身健康」に関すること（452件）、「心理性格」に関すること（427件）、が上位を占め、前述のカウンセラーの専門性が活かされて効果を上げていることが伺える。主な相談内容別の対応概要は次の通りである。

「進路修学」について

- (1) 留年の決定による両親への報告に関する悩み。
- (2) 浪人、留年による同級生に遅れる社会人デビューへの悩み。
- (3) 面接試験に対する自己主張への変容。
- (4) 進路の方向探索に関わる悩み。

「心理性格」「心身健康」について

- (1) 失敗ばかりで「自分に価値が見いだせない」
- (2) なにをやっても上手くいかず「自分に自信が持てない」
- (3) マイナス思考をプラス思考に変革したい。
- (4) 夜型生活パターンを正常パターンに切り替えたい。

「対人関係」について

- (1) 友人とのコミュニケーションが上手くとれない。
- (2) 友人や家族とのトラブルに関する悩み。
- (3) アルバイト先での先輩との意見の対立。

[将来の改善・改革に向けた方策]

学生相談室のミッションは、いずれ社会に進出していく学生が自信を持ってその荒海に乗り出して行けるように「自己変容」と「自己実現」に向けて支援をすることにある。このためには、これを阻害している要因を明確にして改善に取り組んでいく必要がある。今後の相談室に課せられる対応姿勢は単なる受身の相談対応姿勢から、積極的に働きかける姿勢が必要であり、教職員との協力を一層広げることが必要だと考えている。これまでの多くの相談対応から、そのための着眼点として下記のような点がある。

1) 自己認知と自己評価への支援

- (1) 傾聴を中心とした相談対応から、自身の価値の気づきを促す「コーチング」的なカウンセリング力の向上。
- (2) 行動認知療法の積極的な活用による自己変容へのサポート。
- (3) 各種性格検査・診断の実施による自己への客観的な気づきへの支援。

2) コミュニケーション力の向上支援

- (1) 対人関係に悩む相談者に対する「コミュニケーション力養成ミニ講座」の開催などコミュニケーション強化支援への企画運営。
- (2) 中高との連携によるコミュニケーション力養成へのカリキュラムの確立。
⇒中高一貫教育体制の有効活用を図る。

3) 学内外のサポートスタッフとの連携強化

- (1) メンタル不全発症の相談者は健康相談室や就職支援スタッフとの連携が不可欠なため本人の

承諾のもと協力体制を整える。

(2) 情報掲示板(キューポート)の活用等、開かれた相談室を目指し、気軽に早期な来室を呼び掛ける仕組みを確立する。

(3) ゆるされる範囲での情報の共有化とデータベース化を図る。

6-2-7 健康相談室

[現状の説明][点検・評価][長所と問題点]

学生や教職員の健康管理を担当する健康相談室が新宿・八王子校舎に設置され、新宿校舎は9:00～21:20まで、八王子校舎は9:00～17:00まで看護師が常駐している。

ケガの応急処置および病気等に対応している。(表6-12)稀にはあるが救急車の出動要請を依頼することもあり多くの時間を割かなければならない状況になった時は、職員に応援を要請している。

校医が月2回来校し、各種相談を受けたり、医療機関への紹介状を作成している。

新宿校舎では、第2部学生は減少しているが、第1部学生は課題作成のため徹夜する学生が増えている。八王子校舎でも4年生や大学院の学生が実験等で遅くまで学校にいたることが多く見られている。なお本学の感染症対策については、6-2-8に述べる。

また、毎年4月に実施する定期健康診断の受診率は、大きな変化は見られず、ほぼ90%が受診している。(表6-11)

表6-10 健康相談室利用状況(2006～2008年度)

(新宿キャンパス)

(八王子キャンパス)

利用者	大学生		大学院生		大学生
	9時～17時	17時～21時20分	9時～17時	17時～21時20分	9時～17時
2006(平成18)	1207	321	140	5	1624
2007(平成19)	1248	231	173	9	1116
2008(平成20)	1312	197	229	18	954

表6-11 健康診断受診状況

年度	対象者		在学者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
2006(平成18)	1部	1年生	1312	1277	97.3%
		2年生	1308	1226	93.7%
		3年生	1055	974	92.3%
		4年生	1472	1295	88.0%
	2部	1年生	115	97	84.3%
		2年生	173	138	79.8%
		3年生	220	177	80.5%
		4年生	366	231	63.1%
	大学院生		545	503	92.3%
	教職特別課程		53	47	88.7%
	学部研究生		22	13	59.1%
	大学院研究生		4	0	0.0%
合計		6645	5978	90.0%	
2007(平成19)	1部	1年生	1414	1368	96.7%
		2年生	1277	1208	94.6%
		3年生	1243	1157	93.1%
		4年生	1377	1183	85.9%
	2部	1年生	88	72	81.8%
		2年生	115	93	80.9%
		3年生	183	148	80.9%
		4年生	342	247	72.2%
	大学院生		554	519	93.7%
	教職特別課程		47	46	97.9%
	学部研究生		17	9	52.9%
	大学院研究生		5	3	60.0%
	大学院短期留学生		4	4	100.0%
	大学院科目等履修生		1	0	0.0%
合計		6667	6057	90.9%	

2008（平成20）	1部	1年生	1478	1460	98.8%
		2年生	1351	1273	94.2%
		3年生	1248	1160	92.9%
		4年生	1513	1361	90.9%
	2部	1年生	47	44	93.6%
		2年生	81	64	79.0%
		3年生	110	89	80.9%
		4年生	264	194	73.5%
	大学院生		545	504	92.5%
	教職特別課程		49	45	91.8%
	学部研究生		13	5	38.5%
	大学院研究生		6	5	83.3%
	合計		6705	6204	92.5%

[将来の改善・改革に向けた方策]

社会的にも結核が増加し、学生の周囲で結核の発症が見られるようになってきているので健康診断を受けるように周知徹底が必要である。早期に異常に気付けるようポスター等で案内していく必要もある。

健康相談室利用は運動の盛んな八王子校舎ではケガ等が多く、また、広いキャンパスを有しているため対応に苦慮している。新宿校舎では、就職を控えた学生の相談ごとが多くみられる。3年時より指導を開始することにより4年時の就職活動がスムーズに行われていると思われる。

表 6-12 健康相談室利用内容

	(新宿キャンパス)			(八王子キャンパス)		
	2006(18)	2007(19)	2008(20)	2006(18)	2007(19)	2008(20)
切傷・挫傷	75	64	69	169	119	30
打撲・筋肉痛	32	25	30	161	73	17
風邪・咽頭痛	80	80	61	186	85	44
腹痛・下痢	9	12	13	64	42	21
胃痛・胃部不快	17	11	6	30	16	6
頭痛	17	13	22	34	17	19
歯痛	0	0	4	0	1	0
眼疾	7	10	2	22	18	4
火傷	3	3	2	22	11	11
血压測定	266	228	241	15	2	3
体脂肪測定	31	25	33	50	22	189
その他の疾病	66	55	54	86	53	191
生理痛	12	12	13	0	0	0
健康相談	117	124	131	354	257	63
校医相談	13	16	21	5	3	0
医療機関紹介	47	40	61	42	17	6
ベッド使用	41	42	51	7	10	1
検査	723	761	719	377	392	349

6-2-8 感染症対策

[現状の説明]

2007（平成19）年春に麻疹（はしか）が都内の大学で流行している事態を受けて、厚生労働省が、各都道府県に注意喚起を促す通知を出した。本学においても、4月20日を皮切りに複数回、学生部・健康相談室から、学生・教職員に対してはポータルサイトやホームページを用いて注意喚起を行うなど、対応を行った。

6月には、当該年度に教職免許状取得のために介護等体験を行う学生には、抗体検査を義務付けた。また、7月上旬には、八王子キャンパスに通学する1,2年生に麻疹が連続して多発（15件）した

ため、学長室メンバー等によって構成された「麻疹発症に伴う対策会議」において7月7日～7月15日までの期間、工学部の1,2年生、グローバルエンジニアリング学部1,2年生は登校禁止（自宅待機）となり、授業も同期間は休講とすることが決定した。さらに一部の定期試験の日程も変更された。麻疹により定期試験を欠席した者については、追試験での対応となったが、麻疹が発症した学生への負担等を考慮し、原則レポート等の課題で対応いただきたい旨の文書が出された。

また、夏のオープンキャンパスにおいてもスタッフ以外の全学生の入校を禁止し、スタッフ全員に抗体もしくは麻疹ワクチンの接種の確認を求めた。

2008(平成20)年には、学生の周囲で成人麻疹の発症が見られるようになってきているので、抗体価検査(血液検査:ELA法)を受けるように周知し、検査結果が陽性(免疫力)であるかを確認させ、免疫力が無い場合はワクチン接種を受けるように指導し、費用の半額は大学負担とする方式で実施した。現在は、入学手続書類の中に麻疹・風疹ワクチン接種証明または抗体価検査証明を提出させ、学生の感染症対策に努めている。

6-3 学生への進路支援

6-3-1 学生の就職に関わる指導の適切性

[現状の説明]

1) 就職委員会

本学には各学科から3名ずつ選出された教員で組織する就職委員会が教授総会の下に設置されている。就職委員会では就職関連全般にわたっての年間の支援方針・行事内容などについて審議の上、決定する。また就職委員によるオフィスアワーの指導も行われている。

2) 就職支援アドバイザー

就職指導に当たっては就職支援センター職員が中心となって対応しているが、本学OBでこれまで企業の一線で活躍してきた方々を「就職支援アドバイザー」として委嘱し、進路選択に関する相談などに応じている。就職支援アドバイザーは2004(平成16)年度から委嘱し、3年目に当たる2006(平成18)年度は4名、4年目の2007(平成19)年度は5名に増員して今に至っている。

[点検・評価]

就職指導の形態は、マスから個別に移行しつつある。その点では、個々の学生に対して、きめ細かな指導が何より大切である。本学の就職指導体制は、各学科の就職委員、就職支援センター職員、就職支援アドバイザーを配置して、学生への懇切丁寧な指導を心掛け、実績においても高い評価を得ている。現在、八王子校舎には常勤職員1名、就職支援アドバイザー2名、パート職員2名を配置し、また新宿校舎の職員が週2日間八王子校舎に出向しているが、化学系をはじめとして多くの研究室が結集する八王子校舎の就職支援体制の更なる充実が求められている。

[長所と問題点]

就職資料室をリニューアルした「JOB STATION」は、オープンスペースにテーブル・椅子を配置したため、以前よりゆとりを持って就職相談することが可能となった。ゆったりとした気持ちでの就職指導に切り替えることができた点は大きな長所と言える。問題点としては、学生からのエントリーシート添削、進路相談希望が集中してしまう時期があり、その際は就職支援センター職員、就職支援アドバイザーともに不足し、十分な対応ができない点にある。

[将来の改善・改革に向けた方策]

現在、就職支援センター職員にキャリアアドバイザーの有資格者がいないため、専任職員の資格取得に取り組むたい。

6-3-2 就職担当部署の活動上の有効性

[現状の説明]

2003(平成15)年4月に、今までの「学生部就職課」から「就職支援センター」として独立し、学

生の就職指導における強力な支援体制確立を目標としてきた。組織改編に伴って、これまでの学生部という枠組みにとらわれることなく、全学的な立場から就職支援センターとして活動を展開してきた。

2007（平成19）年12月には、八王子校舎にスチューデントセンターが新築したことを機会に、八王子就職資料室をその4階に移設し、広く明るいスペースとなった。

また、八王子校舎はこれまでパート2名を配置し、専任職員が週2・3回交代で出向して、学生の指導に当たっていたが、2008（平成20）年2月から八王子校舎に専属の専任職員1名を配置し、開室時間も延長した。

[点検・評価]

旧来の新宿就職資料室は、2005（平成17）年4月に最新情報の「受発信基地」と位置付けた「JOB STATION」にリニューアルしたが、2008（平成20）年2月には、八王子資料室も「JOB STATION」とし、学生との就職相談スペースを確保した、オープンカフェ型とした。八王子校舎には化学系の全研究室、機械・電気系の一部研究室があり、八王子校舎の就職指導体制の一層の強化が求められている。

[長所と問題点]

学生への指導と対応のスペースとしての「JOB STATION」は、オープンスペースで明るい雰囲気であるが、反面個別指導の際に学生のプライバシーをいかに確保するかが問題である。現在のJOB STATIONは、オープンスペースのため衝立による簡易的な個別相談スペースを部分的に設けているが、話し声が聞こえるなど配慮に欠ける点が多々ある。

今後、相談学生が周囲の目を気にせず、落ちついて話ができるような方策を検討していく必要がある。

[将来の改善・改革に向けた方策]

JOB STATION や企業・求人情報検索システム JOB NOTE については、まだ改善すべき点も多く、より快適なものを目指す必要がある。

スペース問題については、現在のスペースを少し拡張して、個別の相談コーナーを数ヶ所設置したいと考える。現行のオープンスペースが持っている利点と個別相談コーナーの利点を上手く融合させ、学生就職相談の有効性を更に高めたい。

6-3-3 学生への就職ガイダンスの実施状況とその適切性

[現状の説明]

学部3年生及び修士1年生を対象として実施する初回のガイダンスは、「進路ガイダンス」と称し、大学院進学説明会と就職スタートガイダンスをペアにして、毎年7月初旬に実施している。それに続いて、当該学年を対象とした説明会を数ヶ月後に迫る就職活動の実践に十分対応できるようなセミナーの形式で、10月から12月の3ヶ月間にわたって段階的に実施している。11月は「入門編」として就職活動の流れなどについて、11月は「基礎編」として業界・企業研究会、更に12月には「実践編」としてエントリーシート対策、面接試験対策、模擬試験など具体的な内容で実施している。さらに年明けの2月の合同企業セミナーを数日間にわたって開催している。

各月のセミナーは出来るだけ多くの学生が参加できるよう、同内容のものを繰り返し実施している。

就職支援センターでは、低学年の早い段階から自分の進路を考えるためのキャリア教育講座を八王子・新宿校舎で実施した。

[点検・評価]

10月からの就職ガイダンス・セミナーには毎年数多くの学部生・大学院生が参加して実施している。大学院生は学部生の時にも説明を受けている者の多く見受けられるが、就職ガイダンスの内容は学部生と一緒にいる。また、就職ガイダンスは極めて大切な行事と認識されているため研究室の協力もあり、多くの学部生・大学院生が参加している。

2006（平成18）年度には、八王子校舎においても就職ガイダンス、セミナーを実施し、2007（平成19）年6月には、八王子校舎で初めて合同企業セミナーを実施した。

しかし、進路選択に当たっては、学部3・4年生になってから初めて取り組むのではなく、低学年から進路について考える機会を数多く作っていくことが、しっかりとした進路を選択する決め手である。このような考え方は、他大学においてもここ数年来の方向といえる。

本学においても2005（平成17）年度から就職支援センターで、低学年を対象としたキャリア教育講座を実施した。しかし、本学の場合、低学年に対しての必修科目が多く、授業時間との重なってキャリア教育講座への出席率は極めて悪い。キャリア教育の受講者からは高評価を得ているが、残念ながら限定的な評価に止まっている。2007（平成19）年度から工学部電気系学科において2年生後期にキャリア教育が正規選択科目として配当され、ようやく2008（平成20）年度入学生からは2年生後期に全学部・学科にキャリア支援科目として配当されることになったことは評価される。

[長所と問題点]

就職ガイダンスは段階的に実施するため、その時々の実際の就職活動に対応し、理解しやすい説明を心掛けている。しかし、実施回数が多いため授業との調整が難しくなっている。また、問題点として、何度も同じ内容で開催することが困難なため、回数不均衡が出来、参加できなかった学生からの不満が出るケースもある。

キャリア教育は一人でも多くの学生が受講することが理想である。正規のカリキュラムとの関係で出席者が少ないことが大きな課題となっていたが、2007（平成19）年度から工学部電気系学科で正規カリキュラムに配当され、2008（平成20）年度には全学部・学科で配当することになった。しかし、2年生後期では、近い将来の進路について考えるには時期が遅い。就職支援センターとしては、1年生から意識しながら学生生活を過ごすことが肝要であると考えられる。

[将来の改善・改革に向けた方策]

就職ガイダンスは就職講演会と並び数多くの学部生・大学院生が参加する行事であり、今後も力点を置いて実施していく。現在は説明用としてガイドブックを利用しているが、内容についても更に吟味を加えて適切性を図る必要がある。

進路選択にも密接に関わるキャリア教育は、低学年から様々な考える機会を与えることにより、余裕を持って将来の自分を模索する上で非常に重要な教育であることは言うまでもない。本学の低学年に対するキャリア支援体制強化策として、2009（平成21）年度から全学部・学科に正規科目としてキャリア支援科目が開講されるが、実施内容については今後、さらなる充実を検討していきたい。

6-3-4 就職統計データの整備と活用の状況

[現状の説明]

就職統計データは、求人情報、会社説明会開催情報、OB在籍人数、過去の内定者数、企業対応情報、学生情報、就職登録情報、内定情報、推薦応募情報など、多くの情報が「JOB NOTE」にデータベースとして蓄積され、各種委員会への報告及び就職状況分析などにおいて重要なものとして整備している。進路先一覧などについては、個人情報保護法の観点から取り扱いに十分な配慮が必要であり、慎重な取り扱いと整備を心掛けている。

[点検・評価]

就職統計データのうち求人情報は、出来るだけ早めに処理をして学生に公開することに心掛けているが、学生からの進路先届がなかなか提出されないという実態がある。進路先届の提出を失念している学生、届け出ることを知らない学生、大学に知られたくない学生など、様々な理由が考えられるが、大学としては卒業生の進路をリアルタイムに把握する必要がある。

学生には、繰り返し進路先届を提出するよう呼び掛けるとともに、研究室を中心にして状況把握に努力するよう働きかけることに不十分な点がある。

[長所と問題点]

企業・求人情報検索システム JOB NOTE は、就職支援センターの独自システムであり、使い易さ、保守メンテナンスのし易さに優れているが、大学全体で押し進めている学生カルテ（ポートフォリオ）システムから除外されている。入学から卒業・進路先までの学生履歴を構築し、学生を指導するためには、統一したシステムとすべきであろう。

[将来の改善・改革に向けた方策]

統計データは保守メンテナンスも可能だが、企業から送付される OB 名簿などについては、個人情報保護の観点から、保管については大変に神経を使っている。今後は就職支援センター内に統計データの整備や保管についてプロジェクトを構成し、整備と活用を更に有効的に構築したい。

大学レベルの就職データは、若者就職支援全般に関わる重要なものである。本学としても就職・進学など卒業後の進路の実態をより正確に把握できるよう学生に対して報告を促すとともに、学生の進路把握は研究室の職務として訴える必要がある。

6-3-5 就職内定取り消しに対する支援**[現状の説明]**

2008（平成 20）年度に、景気悪化を受け、新卒者の採用内定を取り消す企業が続出し、社会問題化した。2008（平成 20）年 12 月 24 日に、塩谷立文部科学大臣、徳永保文部科学省高等教育局長、河村潤子文部科学省教育局私学部長らが本学新宿キャンパスを訪れ、大橋理事長、三浦学長、水野副学長、横山就職支援センター所長らと、最近の就職環境と内定取り消し問題について意見交換を行い、その後、新宿校舎 2 階の JOB STATION を視察した。

本学では、2009（平成 21）年 2 月に、「就職内定の取消しを受けた学生への特例措置取扱い申し合わせ事項」を作成し、2009（平成 21）年 3 月の時点で、卒業または修了に必要な要件を満たした学生で、内定取り消し等により就職先が決まっていない場合に限り、在学延長もしくは研究生としての受け入れを認める等の特例措置を講じることとした。

6-3-6 大学院への進学支援

大学院進学も進路のひとつであるとの観点から、「大学院進学ガイダンス」を実施し、広報活動を行っている。従来は、学部 3 年生を対象に実施してきたが、学部生にはもう少し早い時期に大学院を意識させる必要があるという観点から、2006（平成 18）年度より学部 1, 2 年生を対象としたガイダンスを八王子キャンパスでも開始した。また、2007（平成 19）年度から大学院生に参加してもらい、大学院生活について発表してもらおう等、生の声を伝える努力を行っている。

6-3-7 留学支援**[現状の説明] [点検・評価] [長所と問題点] [将来の改善・改革に向けた方策]**

学生から授業で行う海外研修（CSGE abroad/ECP abroad 等）とは別の留学についての相談は、国際交流センター、教務課等の窓口で相談にのっている。現状では、留学先の斡旋までは行えておらず、学生のニーズに応じて海外留学に関する対応も検討する必要があるだろう。（なお、5-4-1 も参照のこと。）

6-4 学生活動**6-4-1 課外活動****[現状の説明]**

課外活動を通じて、人格の育成との増進を図るとともに、学生相互の親睦を深めて学生生活を豊かな意義あるものにするために、学生自治会（第 1 部、第 2 部）が組織されている。

第 1 部学生自治会は、第 1 部学生全員を構成員とし、大学が唯一公認する第 1 部の自治団体である。年 1 回開催する学生総会を最高議決機関とし、正副委員長は、学生の選挙で選出される。学生の自治

活動により、学生の福利と学生生活全般の充実向上を図ることを目的としている。下部団体に、学科連合委員会、新聞会、新宿祭・八王子祭実行委員会、文化会、体育会の各委員会があり、自治会の下部組織として2008（平成20）年度は、文化会には14、体育会には27の公認団体としての部があり、学生の約2割が在籍している。

第2部学生自治会は、第2部学生全員を構成員とし、大学が唯一公認する第2部の自治団体である。年1回開催する学生総会を最高議決機関とし、正副委員長は、学生の選挙で選出される。学生の自治活動により、学園の民主的発展と学生相互の親睦および学園生活の向上を目的としている。6月に水無月祭（プレ新宿祭）を新宿キャンパスで開催している。第2部では、4団体（部・サークル）が活動しているが、第1部学生自治会のように文化会や体育会としては組織されておらず、第2部学生自治会直轄となっている。

公認団体には、教員による顧問・部長を置くこととし、部員名簿、試合・合宿報告書、活動報告書、活動計画書の提出を義務づけている。また、活動報告の中に顕著な活躍が認められるクラブや個人があれば、奨励金を授与し、学園創立記念日にその功績を讃え表彰している。

これらの自治会活動は、学校法人が委託徴収している自治会費によって運営されているが、大学後援会からも2008（平成20）年度は、総額850万円程度の補助金給付があり、学園祭や公認団体および第2部学生自治会活動に配分されている。

同好会（サークル）活動については、学生自治会が掌握しており、活動内容について大学では十分な把握ができていないのが現状であるが、単年度で消滅してしまう活動が多いようである。

このほか、生協に学生組合員による学生委員会が置かれ活動している。

表6-13 学生団体主催の行事

4月	新入生歓迎会 献血
5月	プレ八王子祭 第1部学生総会 第2部学生総会
6月	水無月祭 第2部自治会主催球技大会 自転車点検(生協学生委員会)
7月	ドッチボール大会(学科連合)
10月	八王子祭 体育祭
11月	新宿祭
12月	リーダーズキャンプ クリスマスパーティー(学科連合) 自転車点検(生協学生委員会)

6-4-2 クラブ活動状況

[現状の説明]

工科大では、授業のコマ数が多いために練習活動の制約を受ける中で活動を進め、運動部や文化部活動においても大会優勝や上位入賞といった成果をあげている部活動も少なくない。この間の主な大会結果は下表のとおりである。

表6-14 主なクラブ活動状況

日付	事項
2006/6/4	6月4日(日)に町田市総合体育館で開催された2006年度全国有級者テコンドー選手権大会(新人戦)へ、第1部体育会テコンドー部員10名が参加し、以下の結果を得た。 1)トウル(型)黄・緑帯の部 優勝:国際基礎工学科2年1名 2)トウル(型)青・赤帯の部 第3位:環境化学工学科3年1名 3)組み手軽量級 準優勝、技能賞:環境化学工学科3年1名
2006/5/28	5月28日(日)にモトパーク勝沼(山梨県)にて開催された2006キャンパスオフロードモーターサイクルミーティング東日本大会第1戦に第1部体育会モーターサイクル部員が出場し、第2位となる合計199ポイントを獲得した。

	この大会は、学生のみが参加できるモトクロスの大会で、クラス別に競技が行われ、各クラスの順位によってポイントが各大学に付与され、総合ポイントによって順位が決定する方式で、本学のモーターサイクル部は、昨年の東日本大会で総合優勝、全国大会でも第2位の結果を残しており、今年も活躍が期待される。
2006/7/9	7月9日(日)に神奈川県立体育センターにて開催された第41回関東東学生ボクシングトーナメント決勝大会に第1部体育会ボクシング部員4名が出場し、4階級のうち3階級で勝利した。 なお、6月4日(日)に同会場で行なわれた準決勝大会の結果との合計で高ポイントを獲得し、ボクシング部は第5部優勝を勝ち取った。
2006/7/23	第41回関東東学生ボクシングトーナメント決勝大会の第5部で優勝した第1部体育会ボクシング部は、7月23日(日)に神奈川県立体育センターにて開催された入れ替え戦大会に部員5名が出場し、第4部最下位の東京経済大学と対戦した結果、4勝1敗の成績を挙げ第4部への昇格が決定した。
2006/9/9-10	9月9日(土)～10日(日)埼玉県鴻巣市立陸上競技場で開催された、第38回関東東理工系学生陸上競技大会で、第1部体育会陸上競技部の化学応用学専攻修士1年1名が100mと200mの2種目の決勝でいずれも第2位、環境化学工学科4年1名が3000m障害決勝で第3位、同じく5000m決勝で第8位に入賞した。なお、学校対抗戦では、参加51大学中「男子総合第7位」に入賞を果たした。
2006/9/10	9月10日(日)日本武道館で開催された、第55回関東東学生剣道優勝大会で、第1部体育会剣道部は団体戦(団体7人トーナメント戦・参加91大学)に出場し、1回戦は中央学院大学(3勝2敗)、2回戦は千葉商科大学(2勝2敗本数差)に勝利。その結果、全国大会出場条件である上位進出校22校に入り、33年ぶりに出場した一昨年以降3年連続、関東東学生剣道連盟を代表して第54回全日本学生剣道優勝大会(大阪府立体育会館)への出場権を獲得した。
2006/9/17	9月17日(日)鎌倉市鎌倉武道館で開催された神奈川県テコンドー選手権大会へ、第1部体育会テコンドー部から14名が参加し、以下の成績を収めた。 1)男子2部組み手ミドル級 優勝 機械工学科2年1名 2)男子2部組み手ミドル級 準優勝 機械システム工学科3年1名 3)男子2部組み手ヘビー級 準優勝 環境化学工学科4年1名 4)男子2部組み手ライト級 第3位 機械システム工学科2年1名 5)男子2部組み手マイクロ級 第3位 環境化学工学科3年1名 6)男子2部型黄緑帯の部 第3位 電気システム工学科1年1名
2006/9/24	第1部体育会モーターサイクル部は、2006キャンパス・オフロード モーターサイクルミーティング東日本大会(主催:BIG CREW)(第1戦:5月28日モトパーク勝沼、第2戦:7月2日MXパーク軽井沢、第3戦:9月24日MXパークを合計した総合成績で552ポイントを上げ、東日本総合第2位(準優勝)となった。なお、12月17日に栃木県日光スポーツランドで開催される全国大会での上位入賞を目指している。
2006/11/4	第1部体育会硬式野球部は、東京新大学野球連盟秋季3部リーグ戦において、東京農工大学と首位タイの8勝2敗という成績をあげ、11月4日に行なわれたプレーオフを7-4で勝利し、本学の優勝が決定した。11月18日からは、2部リーグ最下位の日本工業大学との入れ替え戦が予定されている。
2006/6/11	6月11日(日)に日本大学生物資源学部体育館にて行なわれた第89回東都学生剣道大会において、第1部体育会剣道部建築学科4年生1名が、18大学54名が出場した個人戦で第3位に入賞した。
2006/10/15	10月15日(日)駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催された第17回全日本テコンドー選手権大会へ、第1部体育会テコンドー部から参加した情報工学科4年生1名は、型初段の部3位、組み手ライト級2位の成績を収めた。 全日本テコンドー選手権大会は世界大会に次ぐ大きな大会で、本学テコンドー部としてはこの大会では初めての入賞であり、部員のモチベーションを大いに上げることとなった。
2006/11/19	11月19日(日)に小金井市立総合体育館にて行なわれた第40回関東東理工系学生剣道個人戦大会(36大学108名出場)において、第1部体育会剣道部の第1部機械工学科2年生1名が、準優勝に輝いた。なお、本学剣道部としてこの大会の準優勝は23年ぶりの快挙である。
2006/11/19	2006年11月19日(日)、上尾運動公園陸上競技場(埼玉県)にて開催された2006上尾シティマラソン大会において、第1部体育会陸上競技部の建築学科・建築学コース3年1名が10kmの種目に出場し、33分15秒の記録で第3位に入賞した。
2006/11/23	2006年11月23日(木)、府中多摩川コースにて開催された第29回府中多摩川マラソン大会において、第1部体育会陸上競技部の建築学科・建築学コース3年1名が10kmの種目に出場し、32分57秒の記録で第2位に入賞した。
2006/11	東京学生柔道連盟から、平成18年度東京学生柔道連盟海外研修団(役員5名、学生24名、合計29名)のメンバーとして、第1部体育会柔道部の第1部環境化学工学科2年1名(工学院大学附属高校出身)が選ばれたので派遣を依頼するとの連絡が、柔道部顧問宛に届いた。この海外研修は、東京学生柔道連盟の主要事業の一つであり、柔道を通して見聞を広め、国際性を身に付けることを目的としたもので、2007年2月22日～3月3日の日程でカナダ(バンクーバー、リッチモンド)、米国(サンノゼ、サンフランシスコ)を訪問し、現地の大学との合同稽古やパシフィック国際柔道大会への参加などを予定している。
2006/10/22	2006年10月22日(日)、上智大学にて開催された東京都学生弓道連盟女子リーグ戦V部Bブロックの優勝決定戦において、第1部体育会弓道部の女子弓道部員4名が駒澤大学と対戦し、26中対11中で惜しくも敗れ、第2位となった。 本学の弓道部は現在70名を越える(半数以上が有段者)部員がおり、うち女子部員は10名。 昨年5月に行なわれた明治神宮審査においては、マテリアル科学科3年1名が大学生では簡単にはなれない3段に昇段するなど、活発な活動を行なわれている。
2007/3/31	2007年3月31日(土)に行なわれたクリーンファイトボクシング2007Part14回戦にて、電気工学科4年生の1名(ボクシング部元主将)が、3人のジャッジも40対36のフルマーク判定でプロデビュー戦に勝利した。
2007/5/19	5月12日(土)～13日(日)、18日(土)～19日(日)国立競技場で開催された、第86回関東東学生陸上競技対校選手権大会(第2部関東東インカレ)で、第1部体育会陸上競技部の化学応用学専攻修士課程2年1名が100m種目の決勝で第7位(10秒78で6位と同タイムだが着差のため第7位)の成績を収めた。同氏は2004年の200m個人優勝、一昨年の200m第5位、昨年の200m第4位に続き、4大会連続での入賞を果たした。
2007/5/26	5月26日(土)、本学1階アトリウムで開催された、第五回少林寺流空手錬心館関東八修本部大会へ、第1部体育会古武術部から25名が参加し、以下の成績を収めた。 1)型試合 一般男子・有級の部 優勝: 電気・電子工学専攻修士課程1年1名 準優勝: 電気・電子工学専攻修士課程2年1名 敢闘賞: 情報工学科4年1名 2)型試合 一般男子・有段の部 第三位: 電気・電子工学専攻修士課程2年1名 3)組手試合 一般男子の部 第三位: 電気・電子工学専攻修士課程2年1名
2007/6/17	6月17日(日)に神奈川県川崎市「とどろきアリーナ」にて開催された第53回関東東理工系学生剣道選手権大会に参加した第1部体育会剣道部は、男子団体戦(7人戦)で36大学中、準優勝を果たした。 この大会での準優勝は、第2回大会以来50年以上ぶりのことで、9月に開催される関東東学生優勝大会(全日本予選)に向け、大きなステップを踏み出した。
2007/7/29	第1部体育会モーターサイクル部は、2007キャンパス・オフロード モーターサイクルミーティング東日本大会(主催:BIG CREW)(第1戦:5月20日モトクロスヴィレッジ、第2戦:7月29日オフロードヴィレッジ)の2戦のポイントを合計した総合成績で601ポイントを受け、東日本総合第1位となった。(2位の東京工芸大は296ポイント)なお、12月9日にモトクロスヴィレッジ(川越市)で開催される全国大会での優勝を目指している。
2007/7/22	7月22日(日)駒沢体育館で開催された全国新入戦へ、第1部体育会テコンドー部から2名が参加し、以下の成績を収めた。 1)組み手ライト級 準優勝:機械システム工学科3年1名 2)型・黄緑帯の部 準優勝:電気システム工学科2年1名 3)型・青赤帯の部 3位:機械システム工学科3年1名
2007/9/9	9月8日(土)～9日(日)埼玉県鴻巣市立陸上競技場で開催された、第39回関東東理工系学生陸上競技大会に出場した第1部体育会陸上競技部は、下記の個人成績をあげるとともに、総合ポイントで争われる学校対校戦で、参加45大学中「男子総合第8位」に入賞した。 100m 決勝8位 (化学応用学専攻修士2年) 200m 決勝3位 (化学応用学専攻修士2年) 400m 決勝3位 (建築都市デザイン学科4年) 3000mSC 決勝5位 (建築学科4年)

	3000mSC 決勝4位(環境化学工学科3年) 5000m 決勝6位(環境化学工学科3年) 110mH 決勝5位(コンピュータ科学科2年) 4×100mR 決勝6位(化学応用学専攻修士2年)、(建築都市デザイン学科4年)、(電気工学科4年)、(応用化学科2年)
2007/9/15	9月12日(水)～15日(土)、静岡県袋井市の小笠山総合運動公園(エコパ)で開催された「第5回全日本学生フォーミュラ大会」の「ものづくり・デザインコンペティション」(主催:社)自動車技術会)に本学のチームが出場したが、参加61チーム中、構想提案・設計・コストから走行・燃費性能までの「ものづくりの総合力」を競う総合成績で第54位という残念な結果であった。 今年の大会には本学の国際交流協定校である台湾の南台科技大も出場しており、総合26位の結果を残している。
2007/11/2	マンドリンクラブが11/2(金)19:00から小平市民文化会館で第51回定期演奏会を予定している。
2007/10	第1部体育会硬式野球部は、平成19年度東京新大学野球連盟秋季3部リーグ戦において、優勝が決定した。来月には、2部リーグ最下位校との入れ替え戦に臨む予定である。
2007/11/24	第1部体育会硬式野球部は、東京新大学野球連盟秋季3部リーグ戦において優勝し、2部リーグ最下位の首都大学東京との入れ替え戦(11/17,18の両日、埼玉県宮大宮球場で開催)を行ったが、1勝1敗で決着がつかず、11月24日(土)13:00から流通経済大学野球場で行われた第3戦にコールド勝ちをおさめ、第2部への昇格が決定した。
2007/11/11	11月11日(日)本学新宿キャンパス1階アトリウムで開催された第12回NTTグループ空手道連盟全国選手権大会へ、第1部体育会古武術部から32名参加し、以下の成績を収めた。1)個人有級の部 準優勝:第1部情報工学科4年1名、第3位:大学院電気・電子工学専攻修士課程1年1名、敢闘賞(4位):大学院電気・電子工学専攻修士課程1年1名、2)個人組手有級の部 優勝:第1部情報工学科4年1名、敢闘賞(4位):大学院電気・電子工学専攻修士課程1年1名、3)団体組手 準優勝:工学院大学古武術部Eチーム(3名)、第3位:工学院大学古武術部Cチーム(3名)
2007/10/14	10月14日(日)成蹊大学で開催された第40回関東学生潜水連盟フリッパー競技会へ、第1部体育会スキューバ・ダイビング部から12名(男子10名、女子2名)が参加し、以下の成績を収めた。1)男子400mフリッパー:2位 2)女子400mフリッパー:2位 3)男子4×100mフリッパーリレー:2位 4)男子混合4×200mフリッパーリレー:3位 (フリッパー競技:ウェットスーツ、マスク、フィン、シュノーケルを着用し、フィンキック泳法により水面移動する競技)
2007/10/7	10月7日(日)所沢市民体育館にて開催された埼玉県大会へ、第1部体育会テコンドー部から10名が参加し、以下の成績を収めた。1)型・黄緑帯の部 優勝:(電気システム工学科2年1名)、準優勝:(環境化学工学科2年1名)、3位:(環境化学工学科2年1名)、2)型・赤青帯の部 準優勝:(機械工学科3年1名) 3)組手・二部中重量級 優勝:(建築学科1年1名) 4)組手・一部ライト級 3位:(機械システム工学科3年1名) 5)組手・二部軽量級 3位:(環境化学工学科2年1名)
2007/12/9	12月9日(日)駒沢体育館にて開催された全国学生大会へ本学テコンドー部から15名が参加し、第1部体育会テコンドー部としては初めての団体組手優勝を成し遂げるなど以下の成績を収めた。 1)団体組手 優勝:(6名)2)一部組手中軽量級 準優勝:(機械システム工学科3年1名) 3)一部組手中重量級 準優勝:(機械システム工学科4年1名) 4)一部組手中重量級 3位:(機械工学科3年1名) 5)二部型 3位:(建築学科2年1名) 6)団体パワーレイキング 3位 7)団体スペシャルテクニク 3位
2007/12	第1部体育会バスケットボール部は、2007年理工学系秋季トーナメント大会において出場23チーム中、第3位の成績を収めた。また、環境化学工学科2年1名個人成績アシスト部門第2位となった。
2007/12/2	12月2日(日)千葉県国際総合水泳場で開催された全日本スポーツダイビング室内選手権大会へ、第1部体育会スキューバダイビング部から12名(男子10名、女子2名)が参加し、以下の成績を収めた。 1)男子400mフリッパー:6位(学生2位) 2)女子400mフリッパー:6位 3)男子200m潜泳:6位
2008/4/19	4月19日(土)、国際医療福祉大学体育館(栃木県大田原市)で開催された、関東大学バドミントン春季リーグ戦へ参加した第1部体育会バドミントン部は、準優勝の成績を収めた。
2008/4	第1部体育会硬式野球部は、所属する東京新大学野球連盟春季リーグ戦の全日程を終了し、3勝7敗で6大学中4位タイの成績となり、2部残留が決定した。最近では2部リーグでも野球推薦で入学している選手もおり、それらのチームを相手に勝つことが難しくなっているなかでの2部残留である。
2008/5/10	5月10日(土)、本学1階アトリウムで開催された、第六回少林寺流空手錬心館関東八修本部大会へ、第1部体育会古武術部から29名が参加し、以下の成績を収めた。 1)型試合 一般男子・有級の部 優勝:電気・電子工学専攻修士課程1年1名、第三位:電気・電子工学専攻修士課程2年1名、敢闘賞:電気・電子工学専攻修士課程1年1名 2)組手試合 一般男子・有級の部 優勝:電気・電子工学専攻修士課程1年1名、準優勝:電気・電子工学専攻修士課程2年1名、第三位:電気・電子工学専攻修士課程1年1名、敢闘賞:電気システム工学科3年1名 3)組手試合 一般男子・有段の部 敢闘賞:電気・電子工学専攻修士課程1年1名 4)組手試合 団体の部 優勝:工学院Aチーム(3名)
2008/5/25	5月25日(日)、三郷市彦成地区文化センターで開催された、少林寺流空手道錬心館第5回支部交流大会へ、第1部体育会古武術部から7名が参加し、以下の成績を収めた。 1)型試合 色帯の部 第三位:電気・電子工学専攻修士課程1年1名、第三位:電気・電子工学専攻修士課程2年1名、 2)型試合 黒帯の部 第三位:電気・電子工学専攻修士課程2年1名、 3)組手試合 一般の部 第三位:電気・電子工学専攻修士課程2年1名
2008/5	第1部体育会バスケットボール部は、2008年理工学系リーグ戦大会において5勝1敗で総合1位となり、4部から3部への昇格が決定した。また、環境化学工学科3年1名が、個人成績アシスト部門第1位、情報通信工学科2年1名がスチール部門第2位、アシスト部門第3位となった。
2008/6/7-8	第1部体育会ソフトテニス部は、関東学生ソフトテニス春季リーグ戦大会において8部で優勝し、5月17日に行われた入替戦の結果、7部への昇格が決定した。 また、6月7日(土)、8日(日)で開催された、関東理工学系大学ソフトテニス大会3部で優勝した。
2008/6/1	6月1日(日)、立川市泉市民体育館で開催された第7回東京都テコンドー選手権大会へ、第1部体育会テコンドー部から11名が参加し、以下の成績を収めた。 1)型試合 男子II部有級者の部 準優勝:環境化学工学科2年1名、第三位:建築学科3年1名 2)組手試合 男子II部中重量級 準優勝:建築学科2年1名
2008/6/8	6月8日(日)に、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場にて開催された、第8回八大学対抗陸上競技大会において、第1部体育会陸上競技部の機械工学科1年1名が、走高跳の大会新記録(201cm)で第1位となった。 (八大学:桜美林・成蹊・成城・玉川・東京理科・武蔵・武蔵工業・工学院)
2008/6/29	6月29日(日)に、日本大学生物資源科学部体育館にて開催された、第54回関東理工学系学生剣道選手権大会に参加した第1部体育会剣道部は、男子団体戦(7人戦)で40大学中、ベスト8(昨年は準優勝)の結果を残した。 また、男子個人戦に出場した機械工学科4年1名が、出場116人中の第3位となった。
2008/6/28	6月28日(土)に、町田市野津田公園陸上競技場にて開催された、第5回14大学対抗陸上競技大会において、第1部体育会陸上競技部の機械工学科1年1名が、走高跳で優勝(196cm大会新)、機械創造工学科2年1名が、800mで第3位(2分00秒11)、機械創造工学科1年1名が、三段跳で第3位(12m85cm)の成績をおさめた。 (14大学:電通大・東工大・農工大・首都大・朝鮮大・外語大・武工大・横浜市大・文教大・理科大・電機大・帝京大・東葉大・工学院)
2008/9/1	9月1日(月)鈴鹿サーキットで開催された「第3回全日本学生対抗チーム・マイナス6%エコドライブコンテスト」(主催:全日本学生自動車連盟)に出場した第1部体育会自動車部は、30チームが出場した学生自動車部の部で優勝し、また、15チームが参加した一般の部、5チームが参加した学生自動車部(女子)の部も含めた全50チーム中、総合優勝を果たした。 この大会は、全日本学生自動車連盟(1952年創立、全国121大学の自動車部が加盟する国内最大の学生モータースポーツ運営組織)が、チーム・マイナス6%のプロジェクトに賛同し加盟校自動車部と共に地球温暖化、環境問題に対して積極的に取り組むために、それに必要となる知識や技術などを身につけ、その集大成として開催するもので、そこで得られた事項を日々の自動車部の活動に生かすことで社会的な貢献を行っていくことを目的としており、スピード主体の自動車競技とは異なり、総合的な運転技術が要求される。

2008/9/7	9月7日(日)、鎌倉武道館で開催された神奈川県テコンドー選手権大会へ、第1部体育会テコンドー部から5名が参加し、下記のように参加した5名全員が三位以内の成績を残した。 1)型試合 成年男子 黄～緑の部 優勝:建築学科2年1名、準優勝:情報デザイン学科2年1名 2)型試合 成年男子 青～赤の部 第三位:環境化学工学科2年1名 3)組手試合 成年男子Ⅱ部ヘビー級 優勝:建築学科2年1名 4)組手試合 成年男子Ⅱ部ライト級 第三位:建築学科3年、第三位:建築学科2年1名
2008/9/26	第1部体育会バドミントン部は、平成20年度関東大学秋季リーグ戦男子6部A(帝京科学大・工学院大・流通経済大・武蔵工大・産業能率大・埼玉工大)において第1位となり、9月26日に千葉商科大学体育館で行われた國學院大学との入れ替え戦にも勝利し、第5部への昇格が決定した。
2008/9/28	第1部体育会陸上競技部は、9月27日(土)・28日(日)に鴻巣市立陸上競技場で開催された「第40回関東理工系学生対校陸上競技大会」において、男子の部で総合6位に団体入賞を果たした。なお、走高跳で優勝した機械工学科1年1名は、8大学対校戦、14大学対校戦に続き、3大会連続優勝となった。
2008/10/26	10月26日(日)慶応義塾大学日吉記念館において、第42回関東理工系学生剣道個人戦大会(38大学、114名出場)が開催され、第1部体育会剣道部の機械工学科4年1名が1回戦から決勝までの合計7試合に勝利し、優勝を果たした。今回の個人優勝は初の快挙となる。ちなみに同氏は、昨年の同大会でも第3位の好成績を残している。
2008/11/3	2008年11月3日(月)に所沢市民武道館で開催された「08年埼玉テコンドー選手権大会」において、第1部体育会テコンドー部の建築学科2年1名が型 成年男子 黄・緑帯の部および組手 成年男子Ⅱ部軽量級で、応用化学科2年1名が型 成年男子 青・赤帯の部でそれぞれ優勝を果たし、環境化学主学科2年1名が型 成年男子 青・赤帯の部で準優勝を果たした。また、建築学科2年1名は技能賞という優秀な成績を修めることができた。
2008/11/16	11月16日(日)に工学院大学新宿キャンパス1階アトリウムで開催された「第13回NTTグループ全国空手道選手権大会」において、型試合段外の部で第1部体育会古武術部の建築学科1年1名が優勝し、電気・電子工学専攻1年1名が準優勝した。また、組手試合段外の部で電気・電子工学専攻1年1名が準優勝、電気システム工学科3年1名が3位と奮闘。さらに組手試合団体の部で工学院大学Bチーム(電気・電子工学専攻2年、電気・電子工学専攻2年、電気・電子工学専攻1年3名)が優勝を果たした。今大会は、型試合、組手試合とも多くの部員が参加し、試合結果でも好成績を飾ることができた。
2008/11/23	2008年11月23日(日)に多摩川河川敷で行われた第31回府中多摩川マラソン大会において、第1部体育会陸上競技部の環境化学工学科4年1名が10km(32分28秒)で優勝、建築学科建築学コース4年1名が10km(32分55秒)で3位に入賞した。優勝した環境化学工学科1名は、昨年の2位に引き続き2大会連続での入賞、3位に入賞した建築学科建築学コース4年1名は、昨年の4位、一昨年の5位に続く3大会連続入賞となった。
2008/12/18	2008年12月18日(木)、各部活の代表者と文化会役員で開催された役員会議において、「同好会である鉄道研究会の部への昇格」について審議された。その結果、工学院大学I部文化会同好会規約第三条における「部への昇格」の条件を満たし、かつ、各部代表者の三分の二以上の賛成を得ることができ、1部文化会への新規加入が承認された。鉄道研究会は、電気システム工学科の高木亮先生を顧問として、2009年度からは部員16名で工学院大学I部文化会の部活として活動することになった。
2009/1	第1部文化会写真部がアサヒカメラの2009年1月号に掲載された。アサヒカメラは、朝日新聞社から刊行されているカメラ・写真に関する雑誌で1926年に創刊された。今回の掲載は、「学生写真部訪問」という、全国の高校、大学の写真部を紹介するコーナーで取り上げられたもの。

6-4-3 創造活動(学生プロジェクト)支援・活動状況

[現状の説明]

本学では、学生グループによる理工学に関する創造活動を活性化することにより、学生の創造性を育成し、かつ人間としての成長を促進させることを目的とした「学生プロジェクト」を募集し、審査のうえ採用された「学生プロジェクト」に対して活動費を補助し、施設・設備を貸与している。

〈理工学に関する創造活動〉

- ・学生グループによる自主的・能動的な理工学に関する課外活動
- ・学生グループによる理工学に関する発明展又は競技会等への課外活動としての参加
- ・その他、創造活動支援の目的にかなう企画として創造活動支援委員会が認めた課外活動

2006(平成18)年度に学生プロジェクトを活動の拠点として八王子キャンパス17号館と犬目キャンパスに「夢づくり工房」が開設された。夢づくり工房内では、プロジェクト活動を通して、学生自らが企画・立案・設計し、工房内の工作機械や工具・各種測定器を用いて自由に試作・製作を行うことができる。工作機械を扱う上では、指導教員を配置し、事前に安全教育を徹底しており、受講者には講習修了証を発行している。2008(平成20)年度は、9つの学生プロジェクトが進行している。

主な活動状況は、表16のとおりである。創造活動については大学からも多額の資金援助があり後援会・校友会からの援助と合わせ約750万円にもなっている。プロジェクト団体にとっては文化部や体育会への援助金を超える額の支援がなされていることは、「ものづくり」を積極的に支援しようとする大学側の意欲の現れである。

表6-15 学生プロジェクトの活動状況

日付	事項
2006/4/14	2006年4月14日より釜山大学(大韓民国・釜山市)で開催された第1回Workshop on Capstone Design and Advanced Technology Road Show for New University for Regional Innovation(NURI)に、本学鳥人間サークルBirdman Project Wendyのメンバー(機械工学科4年)と(国際基礎工学科4年)が招待され、ワークショップに先立って行われた「学生による“ものづくりや創造活動”に関するフォーラム」で、Wendyの活動報告など英語による講演を行った。 このワークショップは、釜山大学をはじめとする韓国の6つの大学の学生による“ものづくり”を中心とした技術コンペティションで、Wendyメンバーは、講演の後、展示プレゼンテーション会場に移動し、2005年夏の第29回鳥人間コンテストで琵琶湖を滑空したNAZCAの図面・機体部品の一部の展示や活動VTRの放映など、韓国の学生への説明やプレゼンテーションをおこなった。

2006/4	「工学院大学 Birdman Project Wendy」が、第30回鳥人間コンテスト選手権大会(2006年7月22日(土)～23日(日)開催予定於琵琶湖)人カプロペラ機部門への出場を目指していたが、書類審査の結果不合格となり、残念ながら今年度出場は叶わなかった。
2006/5/4	本学の学生チーム「dori(ドッグアイ)」は、2006年5月4日(木)～6日(土)北九州市の西日本総合展示場で行われた「ロボカップジャパンオープン2006北九州(ロボカップジャパンオープン2006北九州実行委員会・ロボカップ日本委員会・北九州市主催)」のロボカップサッカー4足ロボットリーグに出場したが、決勝トーナメント1回戦で敗退した。
2006/6/11	全国から18大学のチームが参加して、2006年6月11日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センター大体育館で開催された「NHK 大学ロボコン2006～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～」へ参加した本学チーム「いちょう」は、予選リーグで九州大学と鹿児島大学を相手に圧勝して決勝トーナメントへ進んだが、準決勝戦で昨年のアジア・太平洋チャンピオンである東京大学に敗退し、ベスト4の結果であった。また、会場を沸かせた手動ロボットのユニークなデザインが評価され、デザイン賞を受賞した。
2006/9/16	9月13日(水)～16日(土)、静岡県袋井市の小笠山総合運動公園(エコマ)で開催された「第4回全日本学生フォーミュラ大会ーものづくり・デザインコンペティションー」(主催:(社)自動車技術会、共催: FISITA(国際自動車技術会連盟))に、本学チーム「Kogakuin Racing Team(KRT)」が出場し、参加51チーム中、耐久レース部門では完走30台中25位、構想提案・設計・コストから走行・燃費性能までの「ものづくりの総合力」を競う総合順位で第24位という成績を残した。
2006/11/3	11月3日(文化の日)に筑波サーキット(茨城県)で開催された「第12回日本EVフェスティバル」(日本EVクラブ主催)に「工学院大学 FCEVプロジェクト」チームが出場し、「ERK デュアルジムカーナ」部門で参カロ8チーム中第3位に入賞した。また、「コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ」部門では参加24チーム中第20位(大会序盤にマシントラブルが発生し、焦ってピットロードの速度違反を犯してしまいペナルティを受けた結果で、それがなければ第4位入賞)であった。
2007/7/8	2007年7月8日に神戸サンポートホールにて開催予定の第7回レスキューロボットコンテストの出場を目指して、書類審査に応募していた本学学生プロジェクトKRP(工学院大学ロボットプロジェクト)は、応募23チーム中、書類審査結果第5位で予選出場が決定した。レスキューロボットコンテストは、阪神大震災のレスキュー活動における教訓を踏まえ、防災や災害対応の啓発と創造性教育の場の提供を目的として2000年から毎年実施されているもので、今回の予選には20チーム(大学14チーム、高専4チーム、社会人学生混成1チーム、工業高校1チーム)の出場が決定し、8月10日～12日に行われる本戦出場を目指して臨むことになっている。
2007年5月	「工学院大学 Birdman Project Wendy」が、第31回鳥人間コンテスト選手権大会(2007年7月28日(土)～29日(日)開催予定於琵琶湖)人カプロペラ機部門への出場を目指していたが、書類審査の結果不合格となり、残念ながら今年度出場は叶わなかった。
2007/11/3	2007年11月3日(土・祝日)茨城県つくばサーキットで開催された「電気自動車の祭典第13回日本EVフェスティバル」(日本EVクラブ主催)に「工学院大学 FCEVプロジェクト」チームが出場し、手作りEV(電気自動車によるコンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ部門)で出場23チーム中4位、手作り電気レーシングカート(ERK)によるジムカーナのトーナメント戦「ERK デュアルジムカーナ(クラス:ERK-1)」部門で、出場10チーム中第3位に入賞した。 日本EVフェスティバルは、手作りEV電気自動車を走らせ、EVの可能性を広げて楽しさを発見する市民によるEVの祭典で、今回で13回目の開催。同フェスティバルでは、チャレンジ種目として、手作り電気レーシングカート(ERK)によるジムカーナのトーナメント戦「ERK デュアルジムカーナ」や、市販のガソリンエンジンをEV(電気自動車)に変身させたコンバートEVで1周2kmのサーキットを1時間で何周できるかに挑戦する「コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ」などが行われた。
2008/7/27	7月26日(土)・27日(日)の両日、滋賀県彦根市の琵琶湖東岸で開催された「第32回鳥人間コンテスト選手権大会」(主催:読売テレビ放送株式会社)に、厳正な書類審査の結果、本学学生プロジェクトチーム・鳥人間サークル Wendy(Birdman Project Wendy)の「人カプロペラ機ディスタンス部門」への出場が決定した。 本学チームの出場は、第29回大会の滑空機部門オープンクラスで総合第4位及び審査員特別賞を受賞して以来3年ぶりであり、メンバー丸となって飛行機の制作・調整に取り組んでいる。
2008/4/29	2008年4月29日に釜山大学(大韓民国、釜山市)で開催された Capstone Design 発表大会に、本学 FCEV プロジェクトのメンバー(大学院機械工学専攻修士課程1年1名)(大学院機械工学専攻修士課程2年1名)が招待され、FCEV プロジェクトの活動報告など英語によるプレゼンテーションを行った。
2008/6/8	6月8日(日)、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センター大体育館で開催された「NHK 大学ロボコン2008～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～」に、本学ロボット・プロジェクトチーム「KRP」が出場した。NHK 大学ロボコンは、「ABUアジア・太平洋ロボコン」の国内代表チームを選出する選考会を兼ねている大会で、優勝すると日本代表チームとして世界大会に出場できる。今回は、全国52の大学から71チームが応募し、2回の選考を通過した21チームのひとつとして選ばれた。本学チームは、2003年と2006年大会ではベスト4の成績を残しているが、今回こそ優勝して世界大会に出場できるよう、メンバー丸となって、マシンの準備、調整に取り組んだが、残念ながら予選リーグで敗退し、決勝トーナメントには進めなかった。
2008/7/27	7月26日(土)・27日(日)の両日、滋賀県彦根市の琵琶湖東岸で開催された「第32回鳥人間コンテスト選手権大会」(主催:読売テレビ放送株式会社)の「人カプロペラ機ディスタンス部門」に出場した本学学生プロジェクトチーム・鳥人間サークル Wendy(Birdman Project Wendy)はプロペラ機での初フライトに成功し、出場13チーム中第5位に相当する963.5mの記録を残した。
2008/9/13	9月10日(水)～13日(土)静岡県袋井市の小笠山総合運動公園(エコマ)で開催された「第6回全日本学生フォーミュラ大会ーものづくり・デザインコンペティションー」(主催:(社)自動車技術会)に本学の学生プロジェクトチームが出場し、構想提案・設計・コストから走行・燃費性能までの「ものづくりの総合力」を競う総合順位で、参加77チーム中第43位という結果であった。
2008/11/3	2008年11月3日(月・祝日)茨城県つくばサーキットで開催された「第14回日本EVフェスティバル」(日本EVクラブ主催)に「工学院大学 FCEVプロジェクト」チームが出場し、手作りEV(電気自動車)によるコンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ部門で出場24チーム中準優勝、手作り電気レーシングカート(ERK)によるジムカーナのトーナメント戦「ERK デュアルジムカーナ(クラス:ERK-1)」部門で出場7チーム中第3位に入賞した。本学チームは一昨年、昨年に続き見事3大会連続の入賞。日本EVフェスティバルは、手作りEV(電気自動車)を走らせ、EVの可能性を広げて楽しさを発見する市民によるEVの祭典で、今回で14回目の開催。同フェスティバルでは、チャレンジ種目として、手作り電気レーシングカート(ERK)によるジムカーナのトーナメント戦「ERK デュアルジムカーナ」や、市販のガソリンエンジンをEV(電気自動車)に変身させたコンバートEVで1周2kmのサーキットを1時間で何周できるかに挑戦する「コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ」などが行われた。
2008/11	「NHK 大学ロボコン」は、アジア・太平洋地域の国と地域を代表する大学チームによるロボットの競技会「ABUアジア・太平洋ロボコン」(ABUロボコン)の、日本代表を選考する大会であるが、このたび、本学のKRP(工学院大学ロボットプロジェクト)が第1次選考である書類選考に通過したとの報告があった。大会出場までの今後の流れは次のとおりである。 ① 第1次選考(応募書類による選考、2008年12月上旬)⇒ 通過 ② 第2次選考(ビデオによる選考、2009年4月上旬予定) ③ 出場登録(第2次選考通過チームは、出場登録の完了をもって正式に大会出場が決定) ④ 大会出場(2009年6月7日(日)):国立オリンピック記念青少年総合センター

[点検・評価] [長所と問題点] [将来の改善・改革に向けた方策]

2006(平成18)年度から2008(平成20)年度の主な大会結果は下表のとおりである。2008(平成20)年度には、「鳥人間サークル Wendy」は鳥人間コンテスト選手権大会で、人カプロペラ機ディスタンス部門に初挑戦し、960mを超えるフライトに成功(第5位)したり、「工学院大学 FCEV プロジェクト」は、日本最大の電気自動車大会「手作りEV(電気自動車)によるコンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ部門」で準優勝を果たすなど着実に成果があがってきている。

6-4-4 キャンパス間の移動支援 - シャトルバス -

[現状の説明]

学生の課外活動に参加するため、通学している校舎とは別の校舎に通学しなければならない学生の支援を目的として、2008（平成20）年4月7日から、新宿－八王子キャンパス間シャトルバス（乗車人数27名（補助席6席を含む））の運行を開始した。所要時間約40分で、前期・後期の授業期間中、月～金曜日は一日2往復、土曜日は一日1往復を運行している（1回200円）。利用方法は、キューボートの予約システムによる事前予約で、課外活動の場合乗車日の5日前から、その他の場合は3日前から予約が可能である。

【点検・評価】

シャトルバス運行開始当初は、シャトルバスを知らない学生も多く、利用する学生も限られていたため、利用者数は少なかったが、月を追うごとに利用者も増え、10月の利用者合計は、600名を超えるまでになった。また、運行時間が通勤時間と重なる時間ではないため、渋滞のためやむを得ず運休するケースも少なく、順調に運行することができた。また、課外活動支援を目的として開始したが、クラブ活動の利用者だけでなく、授業で新宿・八王子を移動する学生や教職員も多く利用する状況である。

【長所と問題点】【将来の改善・改革に向けた方策】

新宿キャンパスに定まったバス停がなくバスの乗車場所が一定でないため、バスが到着していないと勘違いした学生がバスに乗車できないこともあり、改善の必要性がある。また、シャトルバスの予約を事前にしていない学生が多いこと、シャトルバスを知らない学生が多いことへの対応も必要となる。シャトルバスは新宿・八王子間を40分と短い時間で移動でき、なおかつ電車に比べて料金も安いことから周知した場合に利用者が増えることが予想される。その場合、乗車できない学生が増える可能性もあるので、予約の徹底、バスの駐車場所の周知を徹底していくことが必要となる。

6-4-5 学生の受賞

【現状の説明】

クラブ活動や創造活動と同様に、本学学生の日頃の研究成果は、受賞という形で、社会に広く貢献し、評価されていると言えよう。この3年間の主な学生の受賞状況は下表のとおりである。

表6-16 学生の受賞

日付	事項
2006/3/20	本学電気工学科を3月に卒業した1名(横山研究室)と1名(曾根研究室)が、3月20日に電気学会東京支部から電気学術奨励賞を受賞した。また、同じく3月に電気工学科を卒業した1名(小林研究室)は、電気学術女性活動奨励賞を受賞した。
2006/3/12	本学建築学科4年1名(藤木研究室)は、3月12日に仙台市で開催された卒業設計日本一決定戦(仙台デザインリーグ2006)(仙台建築都市学生会議およびせんだいメディアテーク主催)において2等(日本二)に選ばれた。この催しは都市・建築デザインのプロを目指す全国の学生の卒業設計を一堂に集め、一線級の建築家を審査員に迎え、公開審査のもとに卒業設計日本一を決定する大会で、昨年に続き、2年連続の日本二となった。
2006/4/30	本学建築都市デザイン学科卒業生1名(澤岡研究室)は、4月25日～30日にさいたま市で開催された第6回・埼玉卒業設計コンクール(社団法人埼玉建築設計監理協会主催)において9大学26作品の中から「優秀賞」2作品のうちのひとつに選ばれた。
2006/6/1	本学建築都市デザイン学科卒業生現修士課程1年1名(澤岡研究室)は、5月29日～6月1日に明治大学駿河台校舎アカデミーコモンで開催された第29回学生設計優秀作品展—建築・都市・環境—(学生設計優秀作品展組織委員会・レモン画翠主催)において「レモン賞」を受賞した。
2006/6/3	本学建築学科卒業生現修士課程1年1名(藤木研究室)は、6月3日に工学院大学新宿キャンパスで開催された第15回東京都学生卒業設計コンクール(社団法人日本建築家協会関東甲信越支部・学生デザイン実行委員会主催)において「金賞」を受賞した。
2006/10/24	10月24日(火)に東京都トラック総合会館にて行われた「大学・地域の協働による学生まちづくりプレゼンテーション大会 in 四谷」(東京商工会議所・四谷地区商店会連合会共催)の表彰式で、本学の学生チーム(初田研究室)が、最高賞である新宿区長賞を受賞した。同大会は今回が初開催。本学をはじめ日大、明大、専大、法大、産業能率大、東京富士大の7大学計10チームがプレゼンに参加。本学の学生は、四谷再発見をテーマに街づくり案を提案したもので、東京商工会議所は、今後、関係機関と協力して本学の学生が提案した企画実現に向けて検討を進めるとのこと。
2006/9/8	9月7日、8日に北海道工業大学で開催された、平成18年度(第24回)電気設備学会全国大会で、電気・電子工学専攻修士課程(電気エコロジー研究室所属)の大学院生3人が、全国大会で優秀と認められる新進の発表者へ贈られる「発表奨励賞」を受賞した。
2006/11/11	2006年11月11日(土)、(株)セルター(本社・山形市)において、「セルター学生設計競技2006」のプレゼンテーション及び最終審査が行われ、建築学科・建築学コース4年山本研究室1名の作品が優秀賞を受賞した。この設計競技は、1999年に「東北学生設計競技」として始まり回を重ねるごとに学生の建築家への登竜門としての認知度が上がり、第8回となる今回は全国から過去最高の547点の作品が寄せられた中での受賞である。
2006/11/25	2006年11月25日(土)、日本建築学会が創立120周年記念支部共通事業として実施した「美しくまちをつくる、むらをつくる」をテーマとする提案競技において、倉田研究室の学生グループ7名が優秀賞を受賞した。今回で8回目となるこの提案競技では、足立区を対象にして「住んでみたい、行ってみたいまちづくり」を副題にまちづくりの提案を求めたもので、本学の学生グループは「Adachi-Food-Scape「農」で育む、おいしい景観と風土」というテーマで、足立区内に散在する農地を足立区固有の大切なまちづくりの資源として評価し、その活用方法を提案した。今回の競技には19チームが参加したが、足立区の特徴を捉えたオリジナリティのある優れた提案として高い評価を受けた。
2006/11/17	2006年11月16(木)～17日(金)、岡山大学50周年記念館で開催された「電気加工学会全国大会(2006)」において、研究発表を行った機械工学専攻修士課程2年1名(エコマシニング研究室)が、全国大会賞を受賞した。
2006/12/1	2006年12月1日(金)、本学新宿キャンパスで開催された「平成18年度インターンシップ成果発表会(主催:関東地域インターンシップ推進協会)」において、ポスター発表を行った電気工学科3年1名が「ポスター発表奨励賞」を受賞した。当日のポスターセッションには7大学(岩

	手県立、神奈川工科、工学院、東京経済、東京都立、長野、立命館)から11件の発表があり、奨励賞4件(岩手県立大、神奈川工科大、工学院大、立命館大)のうちの1人に選ばれたものである。
2006/12/9	2006年12月9日(土)、八王子学園都市センターで開催された八王子産学公連携機構「第6回研究成果発表講演会」・「第4回はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会」において、研究成果発表を行った本学学生のうち、2名(ナノセラミックス化学研究室所属)が優秀賞を受賞した。
2006/12/16	2006年12月16日(土)、神戸大学瀧川記念学術交流会館で開催されたパワーエレクトロニクス学会「第166回定例研究会」において、「二重コイル駆動型IHクッキングヒーターに用いる加熱コイルの検討」の題目でポスター発表を行った、電気・電子工学専攻修士課程2年1名(電気エコロジー研究室所属)が、優秀賞を受賞した。
2007年3月	機械システムエ学科3年1名の論文が、日刊工業新聞社主催、文部科学省他後援の「第8回理工系学生科学技術論文コンクール」において、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した。 このコンクールは、「科学技術と日本の将来」を基本テーマに、全国の理工系大学生(大学院生は除く)および工業高等専門学校生を対象にしたもので、審査の結果、最優秀賞文部科学大臣賞に選ばれたものである。
2007/3/3	2006年12月8日(金)作品提出締切の国際コンペ、「ケータイ空間デザインコンペ 2006(主催:NTTドコモモバイル社会研究所)」に応募した建築学専攻修士課程1年1名(デザイン研究室3所属)が、佳作に入賞した。 ケータイ空間デザインコンペ 2006は、建築家の隈研吾氏を審査委員長に、世界中からの応募作品から最優秀賞1点(賞金200万円)、優秀賞2点(各50万円)、佳作7点(各10万円)を選考するもので、3月3日に表彰式が予定されており、同日午後の「モバイル社会シンポジウム2007」で入賞者のプレゼンテーションが行なわれることになっている。
2006/11/18	2006年11月18日(土)佐原町並み交流館(千葉県香取市:旧佐原市)にて「佐原の町並み特別公開」という市の事業にあわせて開催された「まちづくりを考える～競技・提案・発表(主催:NPO小野川と佐原の町並みを考える会)」において、多摩美術大学と工学院大学の複数のチームがプレゼンテーションを行い、質疑応答の後、投票、協議が行なわれ、本学の学生が下記の2部門で最優秀賞を受賞した。 ＜競技:地上機・電源ボックス修景の部＞ 小野川沿いの景観上も重要な箇所にある地上機・電源ボックスの修景に関する提案募集に応募した、建築都市デザイン学科4年1名と第1部建築学科3年1名(いずれも都市計画研究室3所属)のチーム作品は、「鋼を素材としており、経年変化により美しくなること、本造の町並みへ新しさを導入したこと、デザインとしては周辺と調和していること」などの点が高く評価され、10数作品の中から最優秀賞に選定されたものである。この案は、今後香取市と具体的な詰めを行い、実現される予定である。 ＜競技:町並み案内地図の部＞ 観光客などに向けて配布する地図に関する提案募集に応募した、第1部建築学科4年1名(都市計画研究室3所属)の作品は、「町並みを描いた絵の美しさ、透明フィルムに下地となる地図を挟み込んだこと、テーマによって自由に内容を更新できること」などの点が高く評価され、4作品の中から最優秀賞に選定されたものである。この案は、今後、NPO法人 小野川と佐原を考える会の方々との具体的な詰めを行ない、実際に作成・配布される予定である。
2007/3/20	本学電気工学科を3月に卒業した1名(電気エコロジー研究室)が、3月20日に電気学会東京支部から電気学術奨励賞を受賞した。また、同じく3月に電気電子情報工学科を卒業した1名(電気エコロジー研究室)は、電気学術女性活動奨励賞を受賞した。
2007/3/7	2007年3月7日(水)、芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催された「(社)表面技術協会第115回講演大会」において、研究発表を行った電気・電子工学専攻修士課程2年1名(電気応用システム研究室所属)が「種々のイオン照射によって改善された酸化チタン薄膜の光機能特性」により、学術奨励講演賞を受賞した。
2007/3/16	本年3月に機械工学科を卒業し、現在修士課程機械工学専攻1年生2名(いずれも流体工学研究室所属)の両名が、3月16日に宇都宮大学で開催された日本機械学会関東学生連合第46回学生会卒業研究発表講演会でBest Presentation Awardを受賞した。
2007年3月	本年3月に修士課程機械工学専攻を修了した1名(流体工学研究室)は、2006年度の自動車技術会大学院研究奨励賞を受賞した。
2007/3/2	2007年3月7日(水)、芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催された、自動車技術会関東支部主催の2006年度学術研究講演会において、大学院機械工学専攻の2名(受賞当時修士1年生・受賞当時修士2年生いずれも流体工学研究室)が連名で執筆した論文が、ベストペーパー賞に選ばれた。
2007/5/20	5月20日(日)に名古屋大学で開催された「日本材料学会第56期学術講演会」にて発表した、化学応用学専攻修士課程1年生1名は、優秀講演発表賞を受賞した。
2007/10/18	大学生、大学院生を対象に「地球温暖化にどう立ち向かうか」とのテーマで実施された懸賞論文(主催:三菱UFJリサーチ&コンサルティング)に、第2部機械システムデザイン学科1年1名は、佳作(応募58点中、優秀賞4作品、佳作5作品)に選ばれた。2007年10月18日 ストリングスホテル東京インターコンチネンタルにて表彰
2007/9/18	2007年9月18日(火)に審査会が行われた、「未来エレベータコンテスト2007」(主催:東芝エレベータ(株))において、建築学科藤木研究室が、優秀賞を受賞した。このコンテストは、都市の水平・垂直方向への交通機関の新しいシーンを提案・模索するために、建築系およびデザイン系の大学・大学院を対象とした10年後(2017年)の新しい交通のアイデアを考えるコンペティションとして初めて開催されたもの。今回は指名された10大学(工学院大、東京大、東北大、九州大、東京理科大、早稲田大、慶応義塾大、京都造形芸術大、明治大、桑沢デザイン研究所)の10研究室が参加し、藤木研究室は、『浮遊住居として/あるいは遊牧民(ノマド)のためのユートピア』と題して、環境問題を解決するために人は定住することなく、浮遊する空中浮遊移動する新しいライフスタイルを提案したもので、最優秀賞は逃したが、それに続く2件の優秀賞の一つに選ばれ、表彰された。
2007/11/25	2007年11月25日(日)、八王子市学園都市センターイベントホールにて開催された「学生と市長とのふれあいトーク That's 八王子学～学生が提言するまちづくりとは～」(主催:八王子市、共催(財)八王子市学園都市文化ふれあい財団)にエントリーしていた建築都市デザイン学科野澤研究室の学生グループ(修士1年2名を中心とした3年生も含むグループ)が、優秀賞を受賞した。 今年で3回目となるこのイベントは、大学の研究室やゼミにおいて研究した研究成果を市長に提言することにより、学生の市政への参画、地域の活性化を図り、学園都市づくりを目指す八王子市の事業に活かしていくことを目的としたもの。今回は6大学(工学院大、杏林大、東京工科大、東京造形大、拓殖大、山野美容芸術短期大)10グループが参加したが、本学の学生グループは「八王子キャンパスシティライフ～各世代に開かれた学園都市を目指して～」と題して、単に大学がたくさんある都市というだけではなく、日常の様々な場面で、幅広い市民が楽しく学べ、また時には教えることのできるまちをつくるための仕組みや空間を提案した。最優秀賞は逃したが、それに続く2件の優秀賞の一つに選ばれ、表彰された。
2007/9/7	9月6日、7日に広島工業大学で開催された、平成19年度(第25回)電気設備学会全国大会で、電気・電子工学専攻修士課程(電気エコロジー研究室所属)の大学院生3名と電気工学科4年生1名の計4名が、全国大会で優秀と認められる新進の発表者へ贈られる「発表奨励賞」を受賞した。
2007/11/15	11月15日(木)、社団法人建築・設備維持保全推進協会会議室において、「維持保全研究支援奨励金助成論文」の選定委員会が開催され、建築学専攻修士課程2年1名(吉田研究室)の論文が、選定された。 この論文募集は、維持保全関係の研究を奨励するため、平成19年度に修士論文または博士論文を提出する者に対して奨励金による助成を行うことを目的に実施されたもので、19件の応募があり、5件(受賞者他、東大、九大、名大、早大の大学院生)が助成対象論文として選定されたもの。
2007/12/8	2007年12月8日(土)、八王子学園都市センターで開催された八王子産学公連携機構「第7回研究成果発表講演会」・「第5回はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会」において、研究成果発表を行った本学学生のうち、大学院生1名(先端材料工学研究室)と学部4年生1名(電気応用システム研究室)の計2名が優秀賞を受賞した。
2007/12/2	12月2日(日)、佐賀市の佐賀城本丸歴史館において、「新・木造の家」設計コンペが開催され、建築学専攻修士課程2年1名と建築学専攻修士課程1年1名(いずれも建築史研究室2に所属)のチームが提案した作品が、最優秀賞に輝いた。この設計コンペは、NPO法人「森林(もり)をつくる会」が、木造建築の魅力を再認識すると同時に若手建築家を育成しよう、建築を学ぶ全国の学生を対象に実施したもので、3回目の今回は全国から15組の作品が寄せられ、一次審査を通過した6組がプレゼンテーションを行い、最優秀賞と優秀賞2点が選ばれたもの。
2007/12/1	12月1日(土)、東京理科大学野田キャンパスにて開催された2007年度材料技術研究協会討論会(主催:材料技術研究協会)でポスター発表をおこなった、機械工学専攻修士課程2年1名(高分子材料研究室所属)が「ゴールドポスター賞」を受賞した。この賞は、掲示されたポスターの中でも極めて優秀なものであるとみとめられたものに贈られるもので、発表された76件の中から選ばれたもの。
2007/12/21	12月21日(金)、国立台湾大学(台北)にて開催された、国際シンポジウム14th International SPACC-CSJ Symposium(主催:日本化学会基礎錯体工学研究会)で口頭発表をおこなった、化学応用学専攻修士課程2年1名(配位工学研究室所属)が「講演賞(Lecture Award)」を受賞した。この賞は、16件の口頭発表中から選ばれた。
2008/3/6	機械システムエ学科4年1名の論文が、日刊工業新聞社主催、文部科学省他後援の「第9回理工系学生科学技術論文コンクール」において、審査委員特別賞を受賞した。 このコンクールは、「科学技術と日本の将来」を基本テーマに、全国の理工系大学生(大学院生は除く)および工業高等専門学校生を対象にしたもので、受賞学生は、昨年最優秀賞・文部科学大臣賞に続き2年連続の受賞となったものである。贈賞式が3月6日に東京都文

	京区で開催された。
2008/3/6	2008年3月6日、本学新宿キャンパスで開催された、社団法人自動車技術会関東支部主催の2007年度学術講演会において、大学院機械工学専攻修士課程1年生1名(受賞当時学部4年生・流体工学研究室)らが執筆した論文が、ベストペーパー賞に選ばれた。この賞は、応募された72件の講演発表から、事前の論文審査及び発表会当日のプレゼンテーション内容により評価され、優れた論文3件に対して贈られたものである。 また、受賞者の発表は研究発表としても特に優れていると評価され、ベストプレゼンテーション賞(全講演の中から8件)にも選ばれ、研究内容及びその発表手法ともに優れていると評価され、ダブル受賞となった。
2008/3/18	本年3月に情報学専攻修士課程を修了した1名(画像映像情報処理研究室)は、2008年3月18日に明治大学で開催された精密工学会春季大会における贈呈式にて、精密工学会論文賞を受賞した。 この賞は、精密工学会誌73巻6号に掲載されたもので、精密工学会の規程により年間3件以内とされる論文賞に選ばれたもの。
2008/3/14	2008年3月12日(水)～14日(金)、日本大学津田沼キャンパスで開催された「田表面技術協会第117回講演大会」において、研究発表を行った、(当時)化学応用学専攻修士課程2年1名(無機物性化学研究室所属)が、学術奨励講演賞を受賞した。
2008/3/14	本年3月にマテリアル科学科を卒業した1名(在学時、先進材料工学研究室所属)と機械工学科を卒業した1名(現在機械工学専攻修士課程1年、バイオメカニクス研究室所属)が、3月14日に東京海洋大学越中島キャンパスで開催された日本機械学会関東学生会第47回学生卒業研究発表講演会でBest Presentation Awardを受賞した。
2008/4/20	大学院建築学専攻修士課程1年1名(デザイン研究室5所属)は、4月20日に埼玉会館で行われた「第8回卒業設計コンクール」(主催:埼玉建築設計監理協会)において優秀賞を受賞した。 このコンクールは、建築系学生の能力向上と育成を図ることが目的で、今回は9大学23作品の中から、2段階審査の結果、全体で第2位(優秀賞)に選ばれたもの。
2008/5/25	5月24日(土)、25日(日)に鹿児島大学で開催された「日本材料学会第57期学術講演会」にて発表した、化学応用学専攻修士課程1年生1名(先進材料工学研究室所属)は、優秀講演発表賞を受賞した。
2008/6/21	2007年6月に開催された「画像電子学会メディア・コンピューティング・コンファレンス」一般の部で発表した、情報学専攻修士課程2年生(当時、2008年3月修了)1名は、特に優秀であるとして、2008年6月21日に行われた表彰式にて、研究奨励賞を受賞した。
2008/7/9	7月9日(水)に品川インターシティで開催された、電子情報通信学会通信ソフトウェアインターネットアーキテクチャ研究会にて発表した、電気・電子工学専攻修士課程1年生1名(情報通信ネットワーク研究室所属)は、学生研究奨励賞を受賞した。
2008/5/31	大学院建築学専攻修士課程1年1名(デザイン研究室5所属)は、5月31日に本学新宿キャンパスで行われた「第17回東京都学生卒業設計コンクール」(主催:日本建築家協会)において、24大学53作品の中から審査員特別賞を受賞した。このコンクールは、日本建築家協会が選出した5名の審査員(東京都の大学の教員でない建築家たち)が公開審査の中で53作品を評論し、3回の投票の結果、金・銀・銅の3賞に続く5作品の一つに選ばれたもので、11/8～9に行われる全国大会に出場する権利を得た。
2008/6/19	6月16日(月)～19日(木)、韓国釜山、海雲台グランドホテルで開催されたInterfinish 2008 17th World Interfinish Congress and Exposition (International Union for Surface Finishing (IUSF), The Korean Institute of Surface Finishing 主催)において、大学院化学応用学専攻修士課程2年2名(いずれも無機物性化学研究室所属)が、ポスター発表が行われた403件の中から優秀ポスター賞を受賞した。
2008/9/4	9月4日(木)阪南大学で開催された「第24回ファジシステムシンポジウム」(主催:日本知能情報ファジ学会)で発表した大学院情報学専攻修士課程2年1名(感性情報デザイン研究室所属)は、奨励賞を受賞した。
2008/9/9	9月9日(火)大妻女子大学千代田キャンパスで開催された「第10回日本感性工学会大会」で発表した大学院情報学専攻修士課程2年1名(感性情報デザイン研究室所属)は、大会優秀発表賞を受賞した。
2008/8/8	8月8日(月)に開催された「第9回韓・日建築材料・施工 Joint Symposium」で発表した大学院建築学専攻修士課程1年1名(建築生産研究室所属)は、発表論文賞(金武漢賞)を受賞した。
2008/8/29	8月27日(水)～29日(金)高知市文化プラザ「カルポート」で開催された「社団法人電気学会産業応用部門大会」のヤングエンジニアポスターコンペティション(YPC)で発表した大学院機械工学専攻修士課程1年1名(機械システムエ学科自動制御研究室所属)は、優秀発表賞(IEEE IAS Chapter Young Engineer Poster Competition Award)を受賞した。
2008/4/27	4月26日(土)、27日(日)に神奈川県鶴見大学記念館で開催された「第51回日本歯科理工学会学術講演会」で発表した大学院機械工学専攻修士課程2年1名(機械システムエ学科ロボティクス研究室所属)は、9月20日開催の講演会で発表優秀賞を受賞した。
2008/10/17	10月14日(火)～17日(金)に韓国、ソウルで開催された「International Conference on Control, Automation and Systems (ICCAS 2008)」において、本学大学院機械工学専攻修士2年・メカトロ制御研究室所属、1名(国際基礎工学科:現GE学部機械創造工学科卒)が「Student Paper Award」を受賞した。 本国際会議では27カ国からの参加者により、合計601件の論文発表(口頭発表463件、ポスター発表138件)が行われた。受賞者は、「Student Paper Award」にエントリーし、論文審査で12名のファイナリストの一人に選出され、学会中にファイナリスト12名に対して開催されたStudent Paper Competitionで発表を行い、4名の受賞者の一人に選ばれた。
2008/11/1	株式会社遠藤照明主催の「新たな空間スタイルを生み出す家具」をテーマにスタートした家具のデザインコンペ「第1回家具デザインコンペティション2008」が開催された。2008年11月1日(土)に遠藤照明青山ショールームで行われた公開審査で建築学科建築学コース3年1名がユース部門の奨励賞を受賞した。プロ、ユース、グループの3部門に合計460点以上の応募があり、1次選考で66点に絞られた作品が2次選考へ進出した中での受賞。
2008/12/6	2008年12月6日(土)に八王子市学園都市センターで開催された八王子産学公連携機構の「第8回研究成果発表講演会」、「第6回はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会」において、本学の学生4名が優秀賞を受賞した。
2008/12/8	12月3日(水)工学院大学新宿キャンパス3階アーバンテックホールで開催された特定非営利活動法人「日本インターンシップ推進協会(JIPC)」主催の成果発表会において本学の代表としてポスターセッションを行った1名(第1部機械システムエ学科3年、指導教員:濱根講師)が、みごと奨励賞を受賞した。
2008/9/25	2008年9月24日(水)、25日(木)の両日、首都大学東京南大沢キャンパスの国際交流会館にて(社)日本機械学会(バイオエンジニアリング部門 企画)の「第19回バイオフロンティア講演会」が開催され、大学院修士課程機械工学専攻2年1名(バイオメカニクス研究室)が、日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞した。 この賞は、日本機械学会バイオエンジニアリング部門が若手研究者の中から、研究内容が有益で新規性があり、研究発表の態度が優れ、将来の発展が期待される研究者を選出し、機械学会会長名で表彰する権威ある賞で今年には受賞者他1名の2名の受賞となった。
2008/11/8	2008年11月8日(土)新宿アイランドタワー南棟B1階アクアプラザにて「日本建築家協会(JIA)全国学生卒業設計コンクール2008」が開催され、大学院建築学専攻修士課程1年1名(デザイン研究室)が、銅賞を受賞した。これはJIAの全国各支部・地域会から推薦された卒業設計の優秀作品54点が東京に集結して、さらにその中から公開審査によってコンクールを行い、その結果、受賞者の作品が高く評価され、全国で3位となり銅賞(該当者2名)を受賞したものの。
2008/11/15	本学大学院建築学専攻博士課程3年1名を代表者とするチームが、日本建築学会関東支部主催の第10回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」において最優秀賞を受賞し、2008年11月15日(土)に表彰された。この提案競技は、現在、新東京タワーが建設されている墨田区を、「新しいタワーと歴史と文化が息づく下町文化創成拠点」として位置づけたならば、どのような整備、開発方針が求められるか、提案者自身が具体的地区を設定して墨田区の将来像をデザインするというもの。建築・都市デザイナー、建築家、建築士、学生とプロ、アマ問わず対象としており、10回目を迎えた今回は、応募総数も過去最高となった。
2009/2/26	本学大学院建築学専攻博士課程3年1名が、2008年9月から実施された財団法人住宅産業研修財団主催の第6回「真の日本のすまい」提案競技において、林野庁長官賞を受賞した。この提案競技は、これまで培われていたすまいづくりの知恵と伝統文化を再評価し、環境との関係を重視しながら今日の新しい要請にも応えることのできるすまいのあり方を考えるもので、合計210件の応募があり、国土交通大臣賞以下8作品が決定した。2月26日(木)16時から、文京区後楽の住宅金融支援機構本店1階のすまいるホールにて、授賞式と祝賀パーティーが行われた。なお、共同制作者である日本女子大学大学院住居学専攻修士課程生との連名受賞である。

